

とやまの古代生産遺跡等出土品

小杉流団No.7遺跡

安居窯跡群

小杉丸山遺跡

小杉流団No.16遺跡

小杉流団No.18遺跡 B 地区

石太郎 I 遺跡

黒河中老田遺跡

任海宮田遺跡



2021年3月

富山県埋蔵文化財センター

はじめに

当センターは、平成19年度から、本県の代表的な遺跡の出土品を紹介する冊子として、「富山県出土の重要考古資料」を12冊刊行してまいりました。今年度は第13冊として、当センター収蔵出土品の中でも古代の歴史や文化を語る上で重要な生産遺跡等の出土品を紹介いたします。

本書により、多くの皆様に本県の貴重な文化財に触れていただき、関心を深めていただければ幸いです。

令和3年3月

富山県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、「令和2年度文化庁地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」の国庫補助金を受けて実施した、当センターの重要考古資料作成事業で作成したものである。
- 2 本書は、下記の各発掘調査報告書を元に作成した。
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第3・4次緊急発掘調査概要』1982 富山県教育委員会
『富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業発掘体験講座 勅使塚古墳・永代遺跡・安居窯跡群・中山中遺跡発掘調査報告』2003 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第6次緊急発掘調査概要』1984 富山県教育委員会
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第5次緊急発掘調査概要』1983 富山県教育委員会
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第2次緊急発掘調査概要』1980 富山県教育委員会
『富山県小杉町・大門町 小杉流通業務団地内遺跡群第8次緊急発掘調査概要－小杉丸山遺跡－』1986 富山県教育委員会
『ジャパンエキスポ関連遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 石太郎Ⅰ遺跡 石太郎Ⅱ遺跡』1992 富山県埋蔵文化財センター
『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告－主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘報告』2004 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
『任海宮田遺跡発掘調査報告Ⅱ』2007 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 3 本書作成にあたり、発掘調査報告書に掲載された出土品のうち、良好な残存状態でかつ重要度の高い出土品199点を選択し、遺跡ごとに新たに通し番号を付した。
- 4 出土品の図の縮尺は、1/6を基本として各図版に掲載した。
- 5 本書に掲載した地図は、国土地理院の電子地形図（タイル）に遺跡位置を追記して掲載した。
- 6 本書に掲載した出土品は、当センターで保管・収蔵している。

目 次

1	富山県の古代生産遺跡等出土品の概要	1
2	小杉流団No.7 遺跡出土品	3
3	安居窯跡群出土品	5
4	小杉丸山遺跡出土品	8
5	小杉流団No.16 遺跡出土品	13
6	小杉流団No.18 遺跡B地区出土品	17
7	石太郎Ⅰ遺跡出土品	18
8	黒河中老田遺跡出土品	20
9	任海宮田遺跡出土品	21

表紙 小杉丸山遺跡出土軒丸瓦 裏表紙 黒河中老田遺跡出土タタキ板

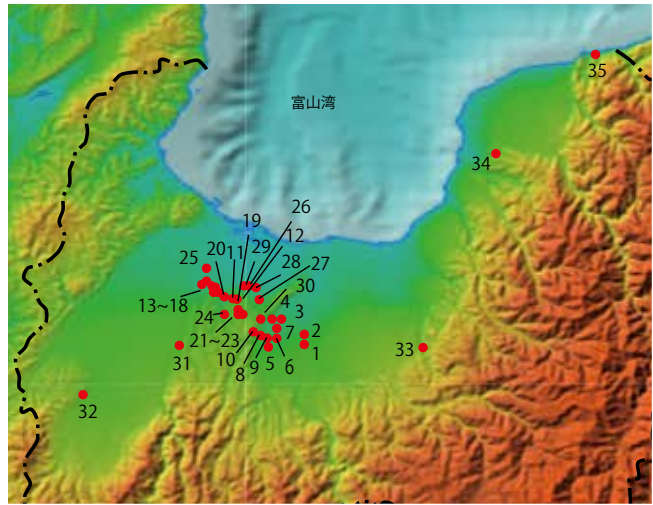
1 富山県の古代生産遺跡等出土品の概要

本書で対象とする古代とは、古墳に象徴される大和政権による支配が弱まり律令国家が形成される7世紀頃から、律令制が実態を失う10世紀頃までの飛鳥・奈良・平安時代とする。古代の生産遺跡としては、須恵器生産・土師器生産・鉄生産・塩生産等が挙げられる。

生産遺跡出土の土師器・須恵器は、古代において遺構や遺物の年代を知るための基準資料として重要である。県内では7世紀には越中国の四郡（射水郡、砺波郡、婦負郡、新川郡）のそれぞれに須恵器窯が形成されはじめ、8世紀には一郡一窯的体制が整えられ最盛期を迎える。

しかし9世紀には急速に衰退し、10世紀には一国一窯程度となり新川郡のみでの生産となる。また、土師器焼成遺構では、8世紀中頃には須恵器窯近辺で煮炊具を生産していたが、9世紀後半～10世紀には集落遺跡内で椀や皿などの食膳具を生産するようになった。

現在、富山県内に古代の生産遺跡は約80遺跡が確認されている。このうち発掘調査が行われ出土品のあった35遺跡を第1表にまとめた。本書では、古代の土器編年の基準資料となる出土品や、生産に必要な道具および特殊品に改めて焦点を当てることを目的とし、これらの中から当センターが所蔵し、かつ残存状態が良好で重要度の高い8遺跡の出土品を選定した。特に射水郡下条川両岸の窯出土品は、7世紀前半から8世紀後半まで続いており、変遷を示す基準資料として重要である。



第1図 富山県の主な古代生産遺跡等位置図

位置	所在地	遺跡名	主な遺構	主な出土品	備考	時期
1		吉倉B遺跡	焼壁土坑3	SX30：須恵器（杯1） SX31：土師器（壺1）	焼壁土坑からの出土。土坑は重複しており、SX30の方が新しい。いずれも不整形な方形プラン。	8世紀中葉～9世紀末
2		任海宮田遺跡	土師器焼成遺構2	須恵器（蓋8、杯9、皿2、壺2）、土師器（杯61、皿1、壺3、鍋3）	土師器焼成遺構からの出土。両面応付きの掘立柱建物や、右帯の出土など大規模な集落。	9世紀後半～10世紀初頭
3		中老田C遺跡	炭窯4	須恵器（杯3）	炭窯02からの出土。	8世紀後半～9世紀初頭
4		金草第一古窯跡	須恵器窯1	須恵器（蓋19、杯26、壺3、壺14）	富山県における須恵器窯調査として、初期の1969年に実施された。	7世紀後半～末
5	富	御坊山遺跡	土師器焼成窯2	SK01：須恵器（蓋2、壺2）、土師器（壺3） SK14：土師器（鍋1、器種不明1）	土師器焼成窯からの出土。	8世紀後半
6	山	向野池遺跡	土師器焼成遺構6 焼壁土坑21	土師器焼成遺構SK01：土師器（壺12、鍋1） 土師器焼成遺構SK02：土師器（壺17） 土師器焼成遺構SK11：土師器（皿1、壺17、鍋1） 土師器焼成遺構SK12：土師器（壺9） 土師器焼成遺構SK16：土師器（蓋11、鍋1）、土製品（土錘2） 土師器焼成遺構SK21：須恵器（蓋1）、土師器（椀1、壺6、鍋6）、土製品（土錘1） 焼壁土坑SK15：須恵器（蓋1）	焼壁土坑SK15からは土師器1点も出土している。井戸からは瓦塔が出土しているが、土師器焼成窯で焼かれた可能性が高い。	9世紀第2～第3四半期
7	市	栃谷南遺跡	瓦陶兼窯2 土師器焼成遺構1 炭窯4	1号窯：須恵器（蓋14、杯80、高杯1、壺2、横瓶4、壺9、甗1）、土師器（甗1）、瓦（丸3、平1） 2号窯：須恵器（蓋30、杯40、鉢2、壺11、横瓶3、壺8、硯3、把手1）、土師器（壺9、鉢1、仏鉢1、甗2）、瓦（軒丸1）	須恵器・土師器・瓦・鉄生産を同時期に行っていた工房・製品集積場。硯や鉢などが出土していることから、国衙関連への供給も想定される。	8世紀前半～中頃
8		西押川ガメ山遺跡	土師器焼成遺構1	土師器：（蓋6、高杯1、壺30、鍋5）	土師器焼成遺構からの出土。	9世紀第2四半期
9		北押川・墓ノ段遺跡	窯業関連遺構1	須恵器（蓋25、杯18、壺1、鉢1、壺3）、土師器（杯2、壺13、高杯2）、土製品（羽口1）	窯業関連遺構15ピットからの出土。	8世紀
10		開ヶ丘ヤシキダ遺跡	土師器焼成坑4 製炭遺構2	土師器焼成坑SK02：土師器（鍋1） 土師器焼成坑SK03：土師器（壺18、瓶1）、焼成粘土塊2 土師器焼成坑SK05：土師器（杯1、鍋3）、焼成粘土塊2 土師器焼成坑SK17：須恵器（蓋1、杯2）、土師器（壺4） 製炭遺構SK26：土師器（壺3） 製炭遺構SK47：土師器（壺1）	土師器焼成坑、製炭遺構からの出土。	8世紀後葉～9世紀前葉
11	射水市	天池窯跡	須恵器窯2	1号窯：須恵器（蓋9、杯14） 2号窯：須恵器（蓋9、杯11）	窯体床面に、杯・杯蓋・壺等の破片を敷き詰めて焼台とし、その上に杯蓋身をセットにして焼成している。	8世紀中頃～後半
12		東山II遺跡	炭窯7	須恵器（杯1、壺1）	2号炭窯からの出土。	8世紀前半

第1表 富山県の主な古代生産遺跡等出土品一覧1

位置 所在地	遺跡名	主な遺構	主な出土品	備考	時期
射 水 市	13 小杉流団No.7遺跡	須恵器窯7	1号窯:須恵器(蓋16、杯20、高杯15、壺12、はそう6、横瓶1、提瓶2、壺16)、土師器(壺1) 2号窯:須恵器(蓋3、杯3) 3号窯:須恵器(蓋15、杯15、高杯3、壺9、はそう4、横瓶1、提瓶1、壺7) 4号窯:須恵器(蓋16、杯22、高杯6、はそう3、壺2、壺9) 5号窯:須恵器(蓋8、杯7、高杯9、鉢1、横瓶3、提瓶1、壺4)	窯跡群の操業期間は短く、ほぼ1形式内におさまり、また同一時期の集落も確認。	7世紀前半
	14 小杉流団No.16遺跡	須恵器窯2	1号窯:須恵器(蓋17、杯52、皿3、高杯1、壺5、焼台3)、土師器(壺4、壺1)、土錘1 2号窯:須恵器(蓋75、杯49、鉢1、壺54、横瓶3、平瓶4、壺8)	土馬・鳥形・硯・陶製印章、印仏出土	8世紀前半～中頃
	15 小杉流団No.20遺跡	竪穴住居5? 炭焼穴?3 焼土土坑2	焼土土坑15:土師器(壺1) 焼土土坑16:土師器(壺1、鍋1)	さいころ形木製品が住居から出土。	8世紀後半～末
	16 小杉流団No.18遺跡	A地区:須恵器窯1、土師器窯27、焼壁坑1、探土坑3、住居5、工房7 B地区:焼土土坑3、炭窯?2 C地区:竪穴住居2、炭焼窯1	A地区:1号須恵器窯 須恵器(蓋5、杯9、皿2、壺6)、土師器窯21・22 須恵器(蓋2、杯2、壺1) B地区:土師器焼成窯穴19 土師器(壺8) C地区:1号炭窯 須恵器(杯1)	須恵器、土師器の工人集落。	A地区8世紀第2四半期 B地区8世紀中頃 C地区炭窯9世紀前半
	17 小杉流団No.32遺跡	炭焼窯2	須恵器(瓶1)、土師器(壺2)	須恵器は第1号炭焼窯からの出土。土師器は炭焼窯前庭部からの出土。	9世紀前葉
	18 小杉丸山遺跡	須恵器窯3 瓦陶兼業窯1 炭焼窯6 製鉄炉3	1号窯:須恵器(蓋17、杯8、高杯2、壺1、鉢1、当て具1) 2・3号窯:須恵器(蓋1、杯3、壺3) 瓦	国指定史跡。瓦陶兼業窯は北陸最古の窯で、富山県における仏教の伝来が従来より古くなった。須恵器・瓦生産に伴う大規模な工人の集落形態が把握できた全国的にも数少ない遺跡。瓦の生産と供給先の高岡市御幸角遺跡との関係が究明でき、地方寺院の成立年代及びその歴史的な背景を明らかにする上でも重要な遺跡。須恵器当て具出土。旧称小杉流団No.21・22遺跡、小杉流団No.12・25遺跡を含む。	7世紀中葉～第3四半期
	19 上野赤坂A遺跡	炭焼窯7 製鉄炉3	2号製鉄炉:土師器(杯1) 3号製鉄炉:土師器(壺2) 4・5製鉄炉:土師器(椀3)	炭焼窯とその炭を利用したと思われる製鉄炉を検出。	11世紀
	20 南太閤山II遺跡	炭焼窯3 製鉄炉2	3号炭焼窯:土師器(椀6) 8号穴:須恵器(蓋12、杯18、皿2、高杯1)、土師器(椀1)	8号穴は須恵器生産に関連した遺構。製鉄炉は長方形箱形炉・縦形炉。	炭焼窯8世紀末頃 製鉄炉10世紀
	21 石太郎C遺跡	炭焼窯6 製鉄炉1	1号炭焼窯:土師器(壺2) 4号炭焼窯:須恵器(杯1) 6号炭焼窯:須恵器(蓋1) 7号炭焼窯:須恵器(壺2) 製鉄炉:鉄滓	製鉄炉からの土器出土なし。	8世紀後半
	22 石太郎G遺跡	炭窯6 製鉄炉2	5号炭窯:須恵器(杯2) 4・5炭窯:土師器(壺1)	炭窯からの出土。	炭窯8世紀前半～中頃 製鉄炉9～10世紀
	23 石太郎I遺跡	須恵器窯1 炭窯3 製鉄炉3	1号窯:須恵器(蓋58、杯20、壺25、横瓶3、鍋2、壺21) 3号炭窯:須恵器(横瓶1) 4号炭窯:土師器(鍋1)	須恵器窯、炭窯からの出土。	8世紀後半
	24 野田A遺跡	炭焼窯4	1号炭窯:須恵器(蓋2)、土師器(壺1) 2・3号炭窯:土師器(壺3) 3号炭窯:鉄滓	炭窯からの出土。	8世紀後半
	25 石名山窯跡	須恵器窯2	1号窯:須恵器(蓋14、杯29、壺3、壺2) 2号窯:須恵器(蓋15、杯14、高杯11、壺3、提瓶1、はそう1、壺4、鉢1)、土師器(鉢1)	須恵器窯からの出土。	1号窯7世紀末～8世紀前半 2号窯7世紀第1四半期
	26 一ツ山古墳群	製鉄遺構の排滓場2 炭焼窯1	西側排滓場:鉄滓486kg、炉壁31.9kg 東側排滓場:鉄滓1,002.3kg、炉壁90.9kg	東西排滓場から、鉄滓多量出土した。	8世紀
27 塚越A遺跡	炭焼窯8 製鉄炉6以上	炭窯01:土師器(壺1) 炭窯03:円筒形土製品3 炭窯05・06:土師器(鍋1) 炭窯07須恵器(壺1)	旧称畑総No.18遺跡	8世紀後半～9世紀初頃	
28 黒河中老田遺跡	粘土探掘坑3	須恵器(蓋2、杯4、皿?1、瓶1)、木製品(掘り棒1、タタキ板1)	粘土探掘坑SK180からの出土。	8世紀後半～9世紀前半	
29 黒河西山遺跡	須恵器窯1 炭焼窯4	1号須恵器窯:須恵器(杯6)、土師器(壺1) 2号炭焼窯:土師器(壺2) 3号炭焼窯:炭・鉄滓	須恵器窯、炭焼窯からの出土。	8世紀第3四半期終末頃	
30 椎土遺跡	炭焼窯13 製鉄炉2	2号炭焼窯:土師器(壺2)、土製品(円筒形土製品1) 3号炭焼窯:鉄製品(鉄鍬1) 4号炭焼窯:土師器(壺4)、鉄製品(鉄刀1) 5号炭焼窯:須恵器(蓋2)、土師器(壺4)、土製品(土管形土製品1) 9号炭焼窯:土師器(壺2)、土製品(円筒形土製品1) 10号炭焼窯:土師器(壺2) 11・12号炭焼窯:土師器(壺2) 1号製鉄炉:鉄滓、炉壁 2号製鉄炉:鉄滓	1号炉からの鉄滓は約2,525kg、2号炉の鉄滓は約279kg出土。	8世紀後半～9世紀	
31 砺波市 徳万類成遺跡	焼壁土坑6	SK102:須恵器(杯1)、土師器(壺1) SK105:炭化材(クリ) SK111:炭化材(クリ)	焼壁土坑があり、簡易な炭焼きを行っていたと考えられる。SK111の炭化材のAMS年代は、7世紀前半～後半。	8世紀後半～9世紀前半	
32 南砺市 安居窯跡群	須恵器窯2	1号窯:須恵器(蓋13、杯3、高杯3、平瓶2、鍋1、壺4)、土師器(壺1) 2号窯:須恵器(蓋76、杯78、高杯82、壺23、平瓶4、提瓶2、横瓶5、鉢2、壺00、硯1、土馬2、陶棺2、鉢1)	旧称安居須恵器窯跡群、安居大塚窯跡群	1号窯7世紀前半 2号窯7世紀半ば～第3四半期	
33 立山町 上末古窯跡群	須恵器窯6	1号窯:須恵器(蓋102、杯134、皿17、鉢5、高杯4、壺35、横瓶10、壺5、壺10、壺1、円形層塔1) 2号窯:須恵器(蓋4、椀13、皿20、壺14、壺3、鍋1、硯1) 3号窯:須恵器(蓋10、杯38、皿20、鉢2、壺40、壺11、硯2) 4号窯:須恵器(蓋39、杯60、椀1、皿8、鉢12、壺31、瓶1、壺11、硯1) 5号窯:須恵器(蓋5、椀18、皿3、壺4、鉢1、壺2) 6号窯:須恵器(椀3、壺5、壺2)	釜谷支群からの出土。	8世紀第4四半期～10世紀中頃	
34 黒部市 吉城寺南遺跡	炭窯6 製鉄炉2	1号炭窯:土師器(杯1) 4号炭窯:土師器(椀1) 5号炭窯:土製品(送風管1) 3号製鉄炉:鉄滓	製鉄炉からの土器出土なし。	炭窯8世紀後半～10世紀 製鉄炉9～10世紀	
35 朝日町 馬場山D遺跡	製塩遺構	製塩土器4	石組付近からの出土。旧称宮崎遺跡第V地点B点、馬場山E遺跡の一部	10世紀	

第1表 富山県の主な古代生産遺跡等出土品一覧2

2 小杉流団No.7 遺跡出土品 (富山県射水市水戸田)

— 7世紀前半：須恵器 25点 (蓋 12点、杯 11点、甕 2点) —

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水郡東部に位置する。下条川左岸の射水丘陵縁辺部にあたり、北側に射水平野が広がる。標高は18～35m、北側の平野部とは10～25mの比高差がある。丘陵北側では良質の粘土が採取されるほか、近辺には山林があり燃料の供給にも適している。

小杉流通業務団地内遺跡群の発掘調査は、昭和52(1977)年から団地造成に伴い開始され、No.7遺跡は昭和55(1980)年の第3次、昭和56(1981)年の第4次調査で実施された。西側斜面に須恵器窯、東側斜面に工人集落が検出されている。全体がわかる窯跡は5基あるが、丘陵裾部の5号窯が最初に築かれ、4号、3号、1号、2号と丘陵上部に移築しながら生産が行われている。5基の窯の操業は半世紀内におさまり、射水郡における郡形成期である7世紀前半の資料として重要である。

(2) 出土品各説

① 1号窯 (1～5) 1・2は蓋。頂部が丸く、口縁部との境がわからない。3・4は杯。底部は丸みをもつ。受部は短く、端部は丸い。5は甕。小型で頸部が短い。

② 2号窯 (6) 6は杯。底部からやや直線的に体部へのび、口縁端部は内傾して立ち上がる。

③ 3号窯 (7～15) 7～10は蓋。頂部は丸く、口縁端部は直線的に垂下する。11～15は杯。底部は15がやや平らであるがそれ以外は丸みもち、受部は短い。口縁は11・12・14は斜め上方に伸び、13・15はやや反り気味に立ち上がる。



第2図 小杉流団No.7遺跡位置図



写真1 小杉流団No.7遺跡窯(西から)



写真2 小杉流団No.7遺跡出土遺物1

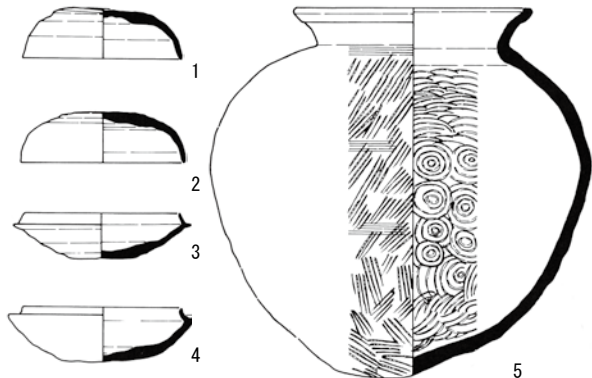


写真3 小杉流団No.7遺跡出土遺物2

④ 4号窯 (16～19) 16・17は蓋。16は頂部が丸く、器高が高い。頂部外面はヘラキリ痕を残す。17は頂部が丸く、口縁部へは直線的に垂下する。18・19は杯。受部は短く、口縁は直線的に斜め上方へのびる。

⑤ 5号窯 (20～25) 20～23は蓋。頂部に丸みをもち、いずれもヘラキリ痕を残す。内面中央部には仕上げナデを施す。24は杯。口縁立ち上がりは厚く短い。25は甕。器高97cm、体部最大径約86cmを超える大型で、肩部に自然釉がかかる。頸部には櫛描波状文が施され、口縁端部は肥厚し内傾する。

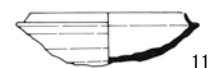
1号窯



2号窯



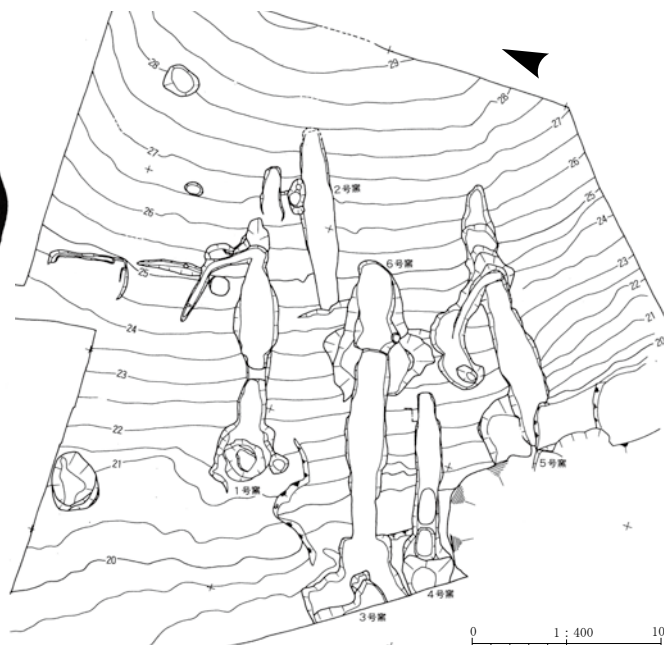
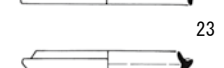
3号窯



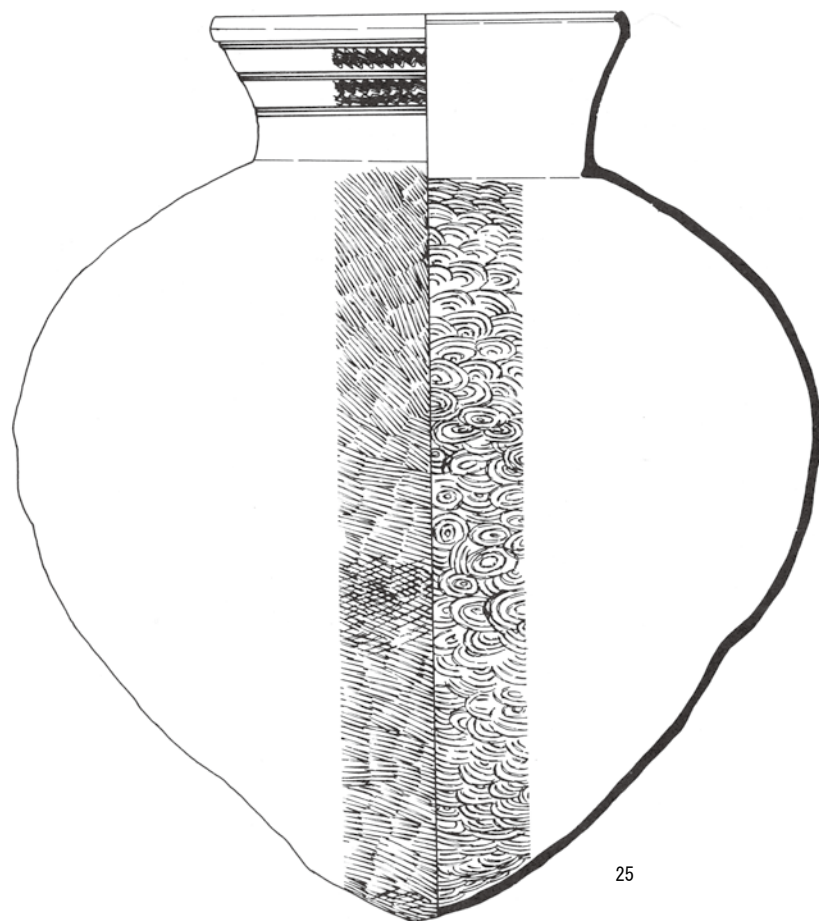
4号窯



5号窯



第3図 小杉流団No.7 遺跡遺構平面図 (1/400)



第4図 小杉流団No.7 遺跡出土遺物 (1/6)

3 やすい 安居窯跡群出土品 (富山県南砺市安居)

— 7世紀：須恵器 42点 (蓋 10点、杯 15点、鉢 1点、高杯 6点、壺 5点、^{かなまり}甕 1点、^{よこべ}横瓶 1点、硯 1点、^{とうかん}陶棺 2点) 土製品 3点 (土馬 2点、土錘 1点) —

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は砺波郡西側中央に位置する。小矢部川左岸、大小の谷が存在する蟹谷丘陵南西側の小丘陵上、標高は75～95mである。発掘調査は、富山県ボランティア埋蔵文化財保護活動事業5か年計画の3年目、平成12(2001)年に行われ、須恵器窯2基を検出した。1号窯が7世紀前半、2号窯が7世紀半ばから第3四半期という県内で数少ない7世紀に操業された窯であり、砺波郡において最初に生産が開始された窯資料ということも併せ、重要である。



第5図 安居窯跡群位置図

(2) 出土品各説

① 1号窯(1～8) 1～4は蓋。1・2はつまみは宝珠形、頂部と屈曲する稜には浅い沈線を引き、頂部のほぼ全面をヘラケズリする。3は1・2と調整は同じものの、つまみは付かない。5は杯。受部は短く口縁端部は内湾しながら立ち上がる。6は広口壺。底部外面にヘラケズリを施す。7は甕。体部に浅い凹凸をつけた金属模倣器種。8は高杯。外面の稜に別個体の口縁、内面に溶滓が付着していたことから、焼台上に転用していることがわかる。



写真4 安居窯跡群窯(北東から)

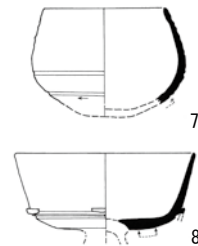
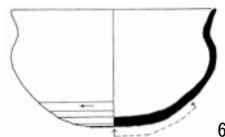
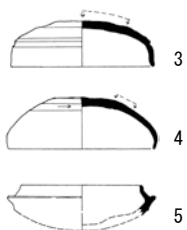
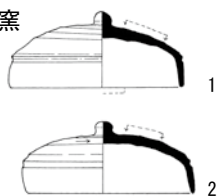
② 2号窯(9～45) 9・12～16は蓋。12～15は小型の蓋で宝珠形つまみが付き、内面に返りがある。16は頂部にヘラケズリを施す。大型のため、椀形鉢や盤の蓋の可能性もある。10・11・17～28は杯。10・11は外底面ヘラキリ未調整で、11はカキメによる条痕をとどめる。17～19は上下を逆転すると蓋に近い形であるが、底部が平らである。28は高台のつく杯。外方に張り出す高台で、外面に自然釉が薄くかかる。29は鉢。厚底で外底面はナデ、体部には二条の沈線を入れる。30～34は高杯。30は脚部中央に沈線を入れ上下二段に分け、6世紀の古い伝統



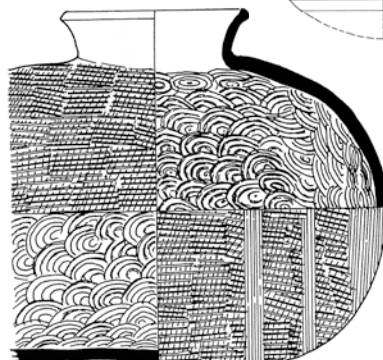
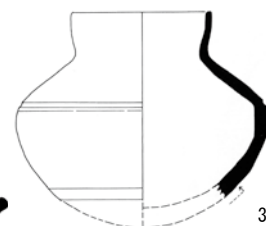
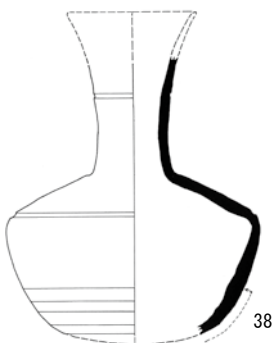
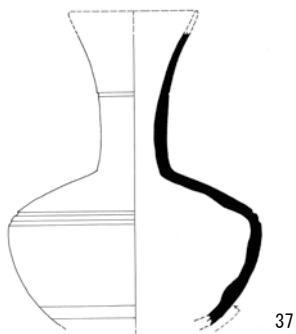
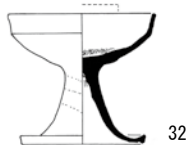
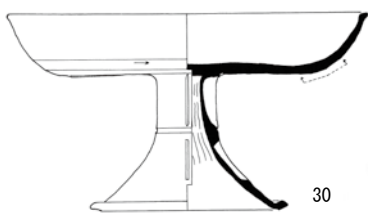
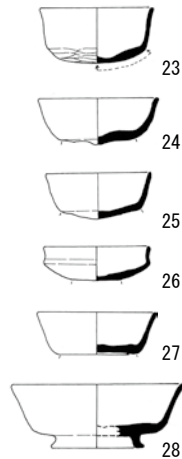
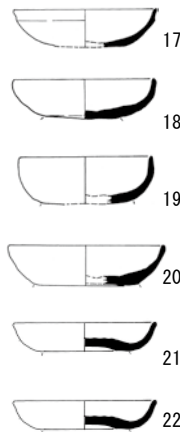
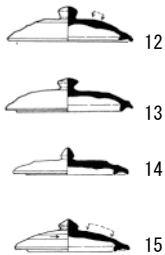
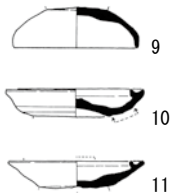
写真5 安居窯跡群出土遺物

を表現した長脚に二段の透かし状の切込みを4か所加えるが、貫通していない。31も透かしの退化した沈線を二段、三か所に入れている。32は屈曲する杯部をもつ。33・34は脚部が短い。35～38は壺。35は小型の短頸壺で、体部下半にヘラケズリを施す。36も短頸壺で体部が大きく張り出す。37・38は長頸壺。長い筒状の口頸部と大きく膨らむ体部を持ち、下部をヘラケズリする。39は横瓶。体部直径が20cm程で体部中央に穴をあけ口縁部をつける。40は硯脚部。小型品で側面には長方形と丸の透かしが入れている。41・42は土馬。色調は灰白色で、須恵質の生焼けである。41は鞍や粘土紐による手綱が表現されているが、片面のみである。42は脚。41とは別個体である。43・44は陶棺。43は棺身、44は棺蓋。低い突帯がつき、厚さは1.2cm程の青灰色に還元焰焼成したもので、内外面を叩いている。タタキ目文は2号窯から出土した甕と共通する。45は須恵質の土錘。長さ8.2cm幅3.1cmと細身の長楕円形である。

1号窯

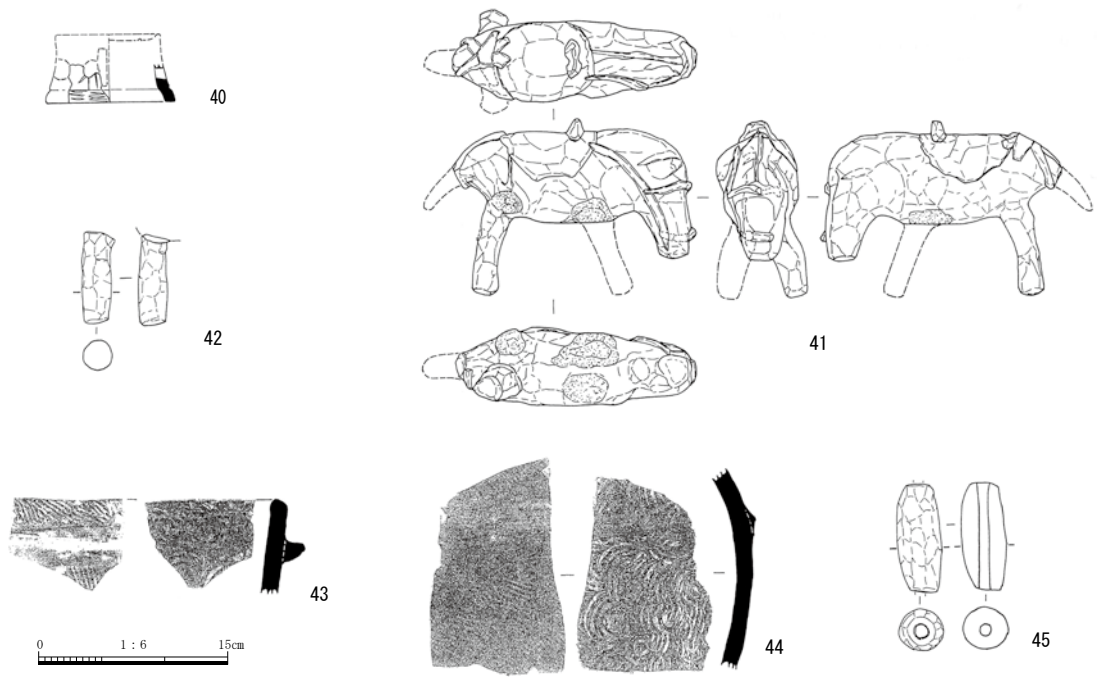


2号窯

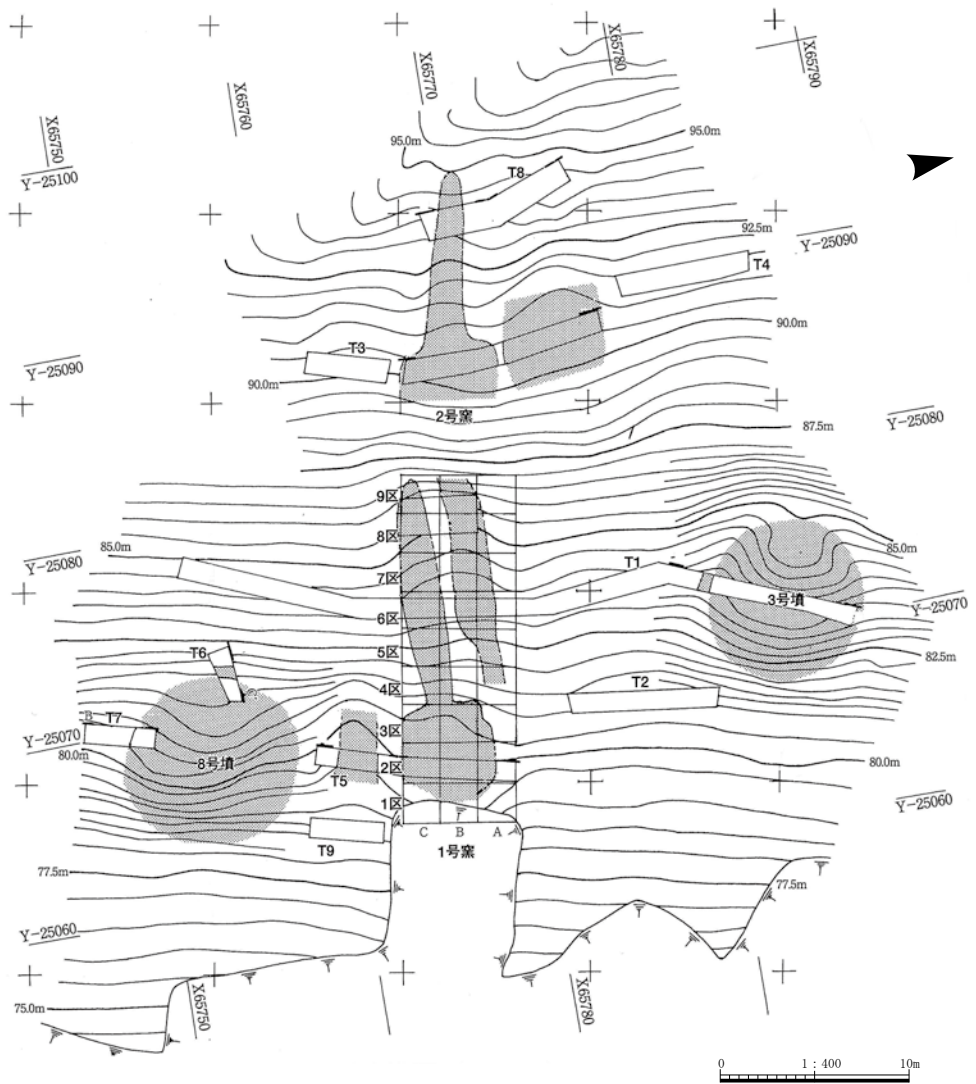


0 1:6 15cm

第6図 安居窯跡群出土遺物1 (1/6)



第7图 安居寨跡群出土遺物2 (1/6)



第8图 安居寨跡群遺構平面図 (1/400)

4 小杉丸山遺跡出土品（富山県射水市青井谷^{あおいだに}・水戸田）

－ 7世紀中葉～第3四半期：須恵器22点（蓋7点、杯3点、椀1点、高杯2点、高盤^{こうばん}1点、壺3点、平瓶^{ひらか}1点、横瓶1点、甕2点、硯1点）、瓦8点（軒丸瓦^{のきまる}3点、丸瓦2点、平瓦3点）、土製品10点（当て具1点、土馬1点、錘3点、土錘3点、舟形1点、紡錘車1点）、石製品1点（紡錘車1点）－

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水郡東側に位置する。下条川左岸、射水丘陵の縁辺部にあたり、北側に射水平野が広がる。標高は20～30m。小杉流団No.7遺跡の谷を隔てた南東に立地する。丘陵北側では良質の粘土が採取されるほか、近辺には山林があり燃料の供給にも適している。

小杉流通業務団地内遺跡群の発掘調査は、昭和52（1977）年から団地造成に伴い開始され、小杉丸山遺跡はNo.21遺跡として昭和57（1982）年の第5次、昭和58（1983）年の第6次、昭和59（1984）年の第7次、さらに小杉丸山遺跡と改称され、昭和60（1985）年の第8次調査で実施された。時期は小杉流団No.7遺跡に後続し、丘陵上から西側斜面にかけて北陸最古の瓦陶兼業窯のほか、炭焼窯・製鉄炉・住居等が検出された。国指定史跡。小杉流通業務団地内遺跡群のなかで最大規模の遺跡であり、生産だけでなく、生産を行った工人の集落が把握できた全国的にも数少ない遺跡である。また、出土品の中に、高岡市御亭角^{おちんかど}遺跡出土のものと調整が一致する平瓦があり、生産地と供給地の関連が分かるとともに、地方寺院の成立年代およびその歴史的背景を明らかにした貴重な例である。



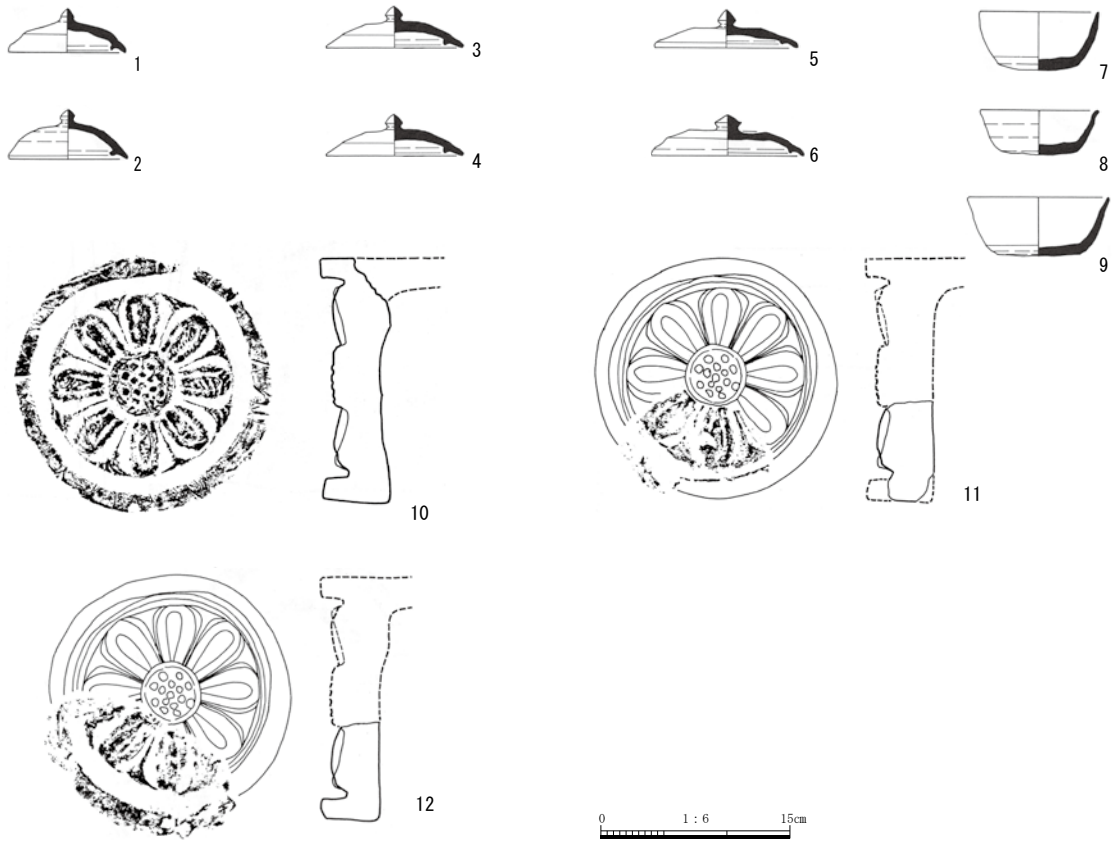
第9図 小杉丸山遺跡位置図



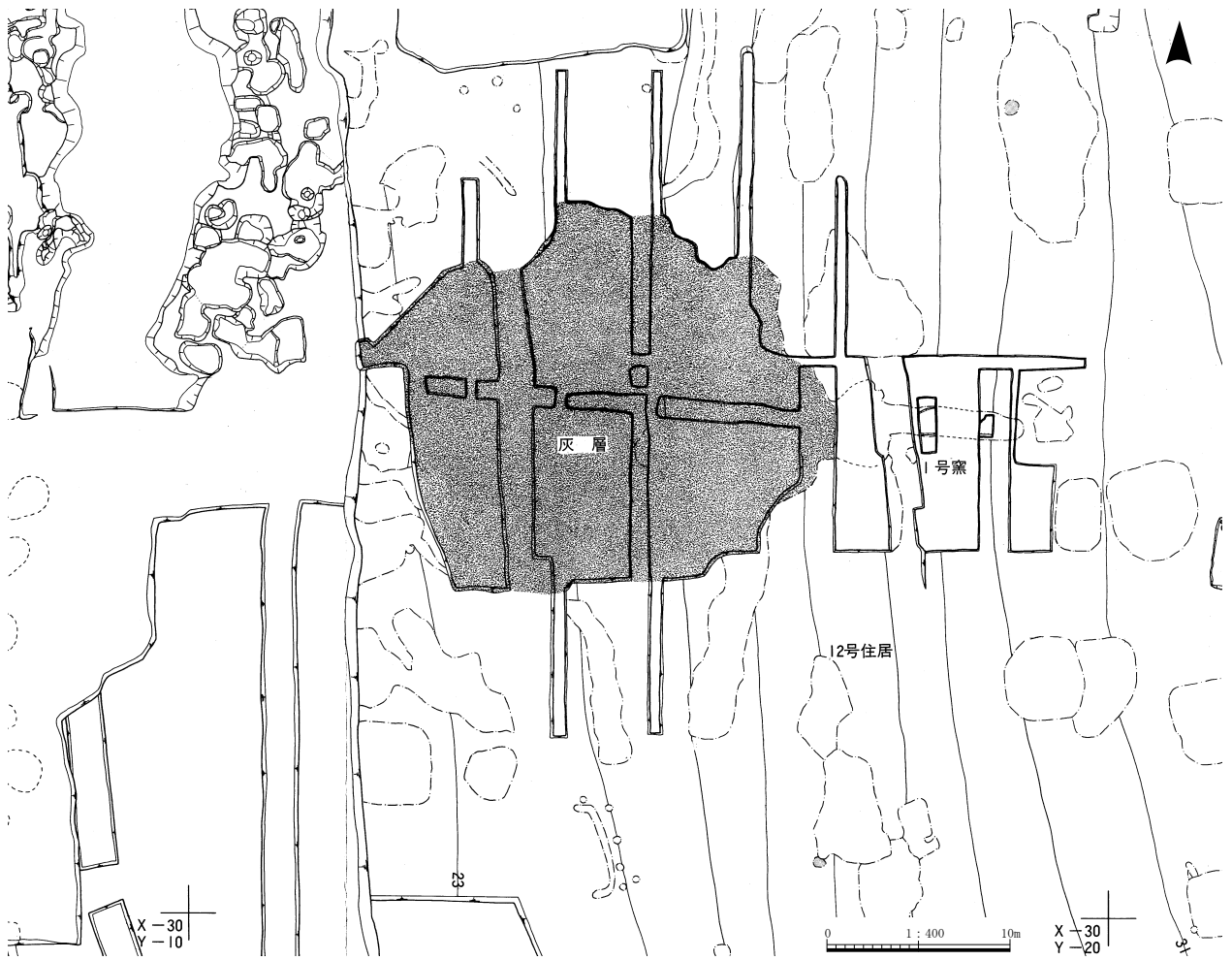
写真6 小杉丸山遺跡全景（西から）



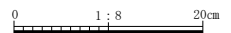
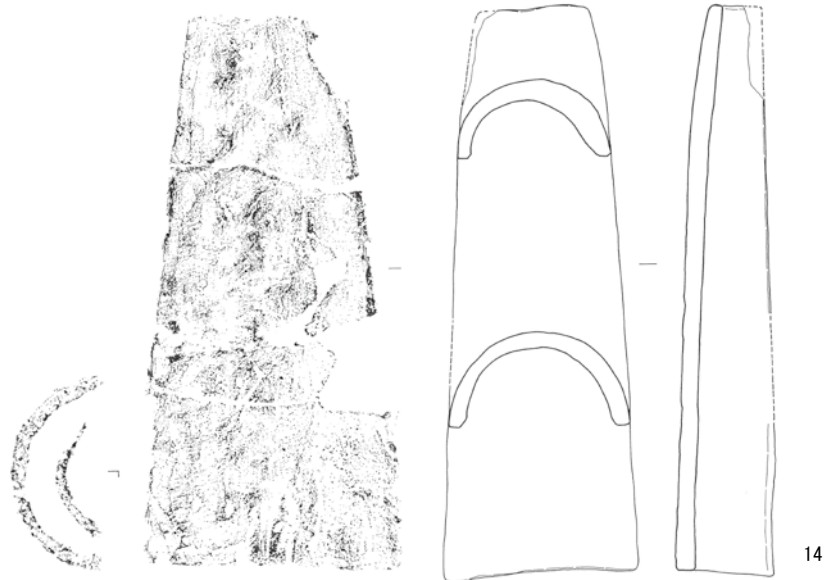
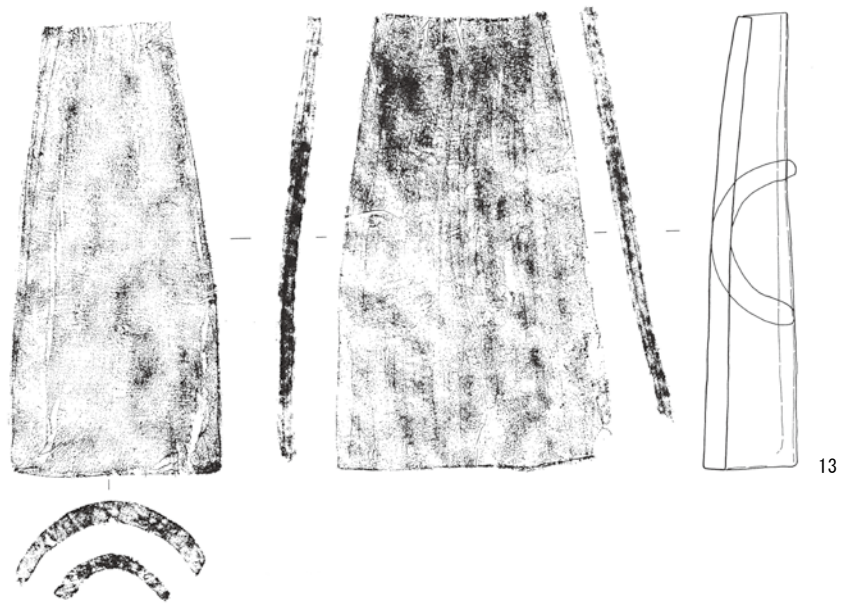
写真7 小杉丸山遺跡出土遺物



第 10 図 小杉丸山遺跡出土遺物 1 (1/6)



第 11 図 小杉丸山遺跡遺構平面図 (1/400)

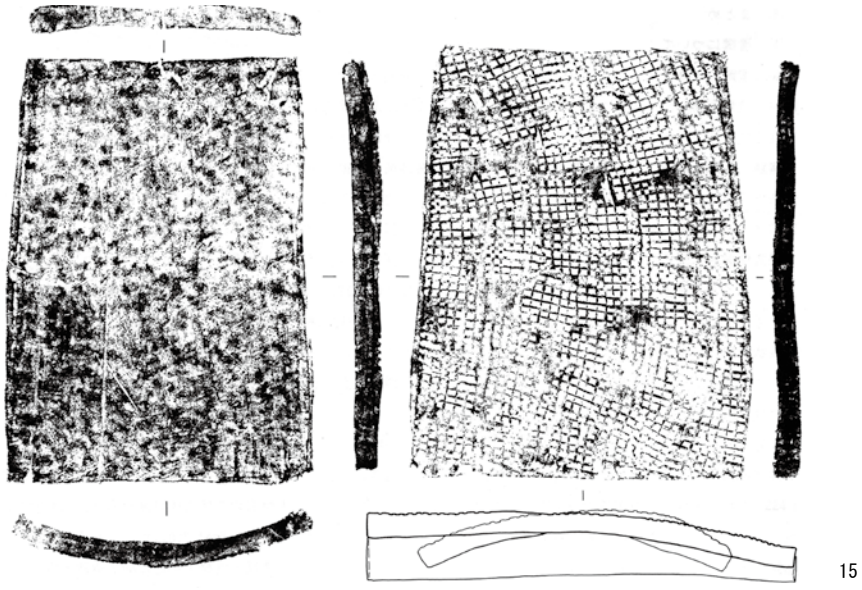


第12図 小杉丸山遺跡出土遺物2 (1/8)

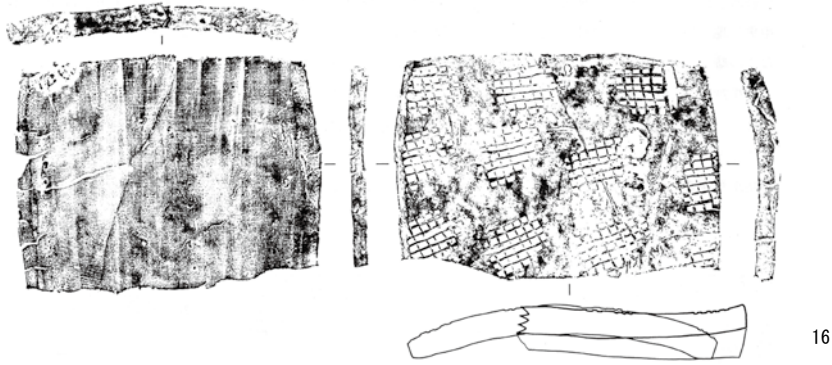
(2) 出土品各説

①1号窯(1~9) 1~9は須恵器。1~6は蓋。頂部は丁寧なヘラケズリが施され、内面に返りがつく。幅が狭く高めのつまみがつく1~5と、宝珠形につまみがつく6がある。7~9は杯。いずれも口径10cm前後。8・9は口縁部がやや外反する。

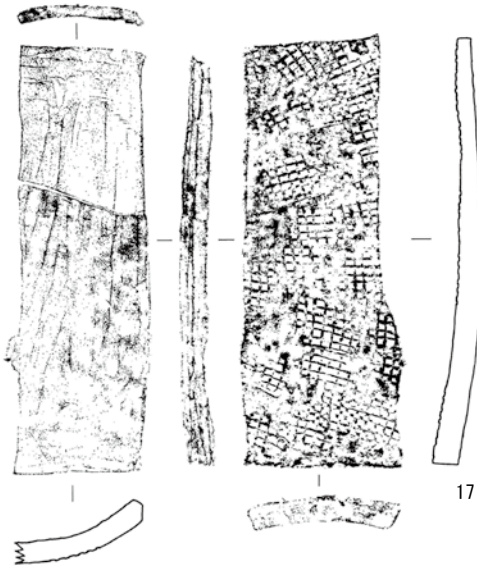
②窯以外(10~41) 10~17は瓦。10~12は軒丸瓦。内区文様は、八葉単弁蓮華文で花卉端は丸い。中房には1+6+8の蓮子が配される。13・14は丸瓦。一方に向かって細くなる行基式で、凹面に布目が見られる。15~17は平瓦。いずれも凸面に格子状のタタキを施している。この格子状のタタキは何種類か確認されているが、写真8・9に示したように、小杉丸山遺跡とは約11km離れた、高岡市御亭角遺跡出土の平瓦と同一のタタキ板を用いていることが確認され、両遺跡が生産地と供給地の関係にあることが判明している。18・19は高杯。杯部は平らな底部から内湾気味に立ち上がる。20は高盤。口縁部は屈曲して立ち上がり、端部は丸く収める。21は壺蓋。頂部に大きな宝珠形につまみをもつ。22~24は壺。22は高めの高台を持つ。23は口縁部がやや内湾気味に高く立ち上がり、



15



16



17

0 1 8 20cm

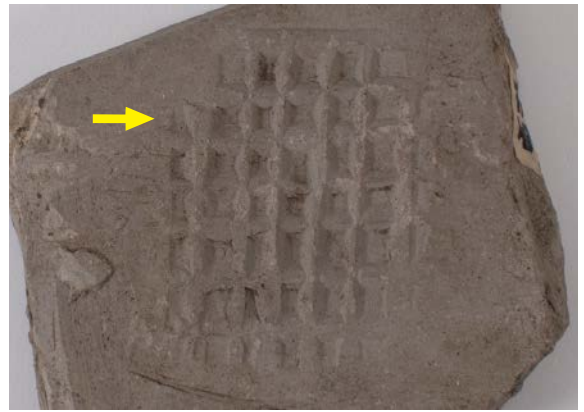
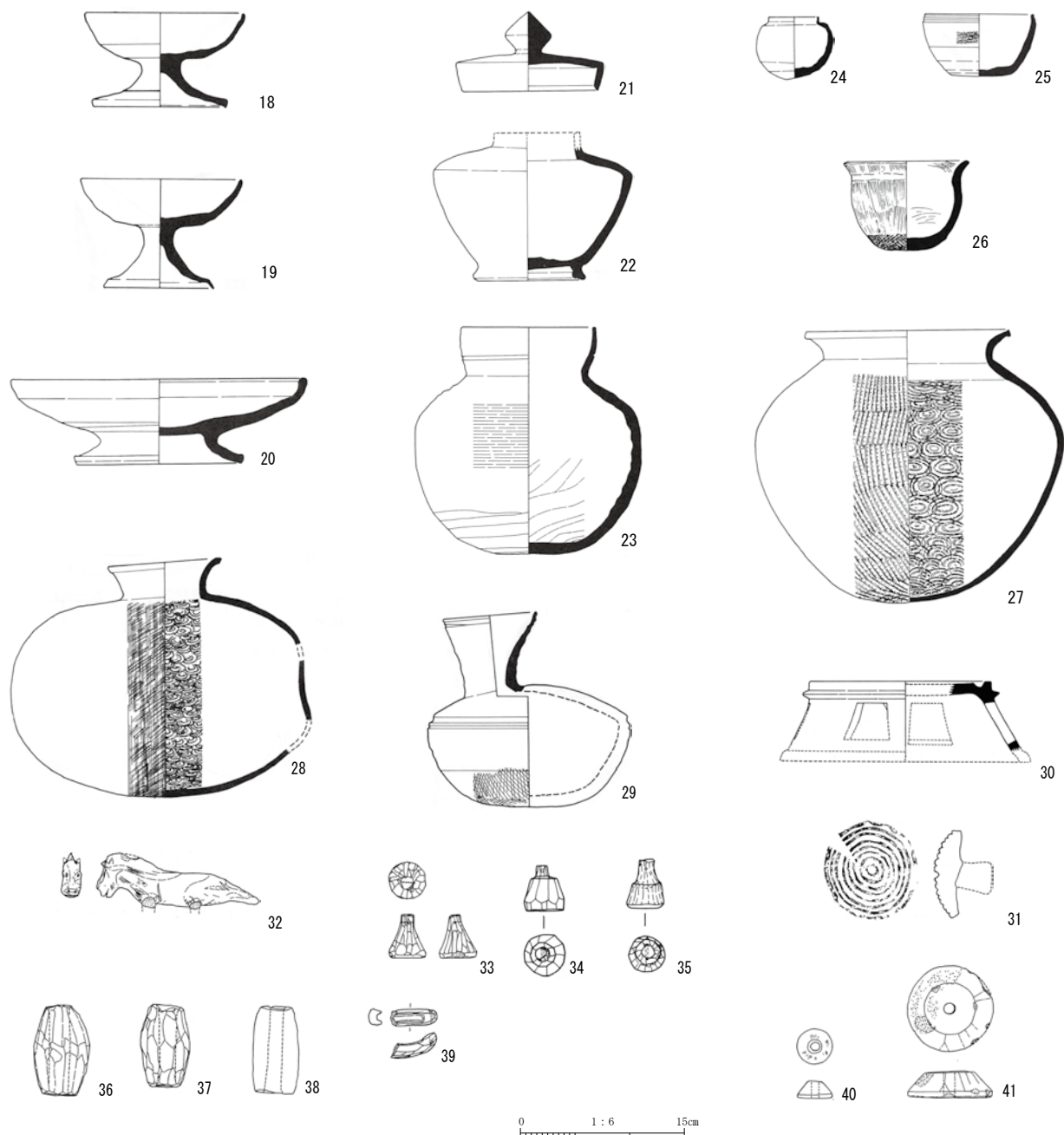


写真8 御亭角遺跡出土瓦



写真9 小杉丸山遺跡15(部分拡大)

第13図 小杉丸山遺跡出土遺物3(1/8)



第14図 小杉丸山遺跡出土遺物4 (1/6)

底部外面にヘラケズリを施す。24は小型の壺で、口縁部が直に短く立ち上がる。25は小型の椀。口縁外面には沈線、体部外面に櫛描波状文が見られる。26・27は甕。26は外面上部から体部はハケ、底部はタタキを施す。器形、調整から土師器小型甕との関連が窺える。28は横瓶。体部外面は平行タタキの後カキメ、器面には気泡粒が多く付く。29は平瓶。体部上面に膨らみをもち、肩部に二条の沈線、下半にはタタキを施す。30は硯。脚部に四角い透かしをもつ。31は当て具。持ち手の部分は欠損している。須恵質で、局面をなす当て面には七重の同心円を彫刻している。32は土馬。頭から胴部、尾部まであり、たてがみが表現されている。33～35は錘。3点ともに上部には横方向の孔が見られ、やや形に違いはあるもの、側面を多角形状に仕上げる。重さは33が46.8g、34が46.4g、35が33.4gと33・34がほぼ同じである。36～38は漁撈用の土錘。36・37は生焼けの須恵質で、面をとるようにヘラ等で直線的に形を切りとり、多角形に整形されている。38は土師質で、中央部分が膨らまない。39は舟形。片側は欠損している。40・41は紡錘車。40は滑石製、41は大型で生焼けの須恵質。

5 小杉流団No.16 遺跡出土品 (富山県射水市青井谷・水戸田)

－ 8世紀前半～中頃：須恵器 52点 (蓋 9点、杯 15点、皿 1点、壺 14点、横瓶 2点、盤 2点、硯 7点、鳥形土器 2点)、土師器 1点 (壺 1点)、土製品 7点 (土馬 4点、印仏 1点、錘 2点) －

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水郡東側に位置する。下条川左岸、射水丘陵の縁辺部にあたり、北側に射水平野が広がる。標高は15～40m。丘陵北側では良質の粘土が採取されるほか、近辺には山林があり、燃料の供給にも適している。

小杉流通業務団地内遺跡群の発掘調査は、昭和52(1977)年から団地造成に伴い開始され、No.16遺跡は昭和54(1979)年の第2次、昭和58(1983)年の第6次調査で丘陵南側斜面および谷頭にかけて須恵器窯2基、住居、段状遺構、粘土採掘坑等が検出された。出土品は、8世紀前半～中頃の須恵器構成を代表する資料として重要であり、硯、鳥形土器、印仏などは特に珍しい資料である。

(2) 出土品各説

① 1号窯 (1～27) 1～16は須恵器。1～3は蓋。1は杯蓋。頂部が平坦で、肩部から端部にかけて弧状に開く形態のもの。2・3は壺蓋。2は高い宝珠形つまみをもつ。3は扁平な宝珠形つまみをもち、体部には一本の沈線が入る。4・5は杯。4は中型で高台が付く。5は体部がややそり気味に長く立ち上がる、珍しいタイプ。6は皿。高台はつくが低い。7～13は壺。7・8は、肩部・体部に沈線が入る。9はタタキ後、体部外面に縦方向のケズリが施されている。10・11は長頸壺。頸部と肩部に沈線が入る。12・13は小型壺。13は12と同形だが、沈線は施されない。14は



第15図 小杉流団No.16遺跡位置図



写真10 小杉流団No.16遺跡全景(南から)



写真11 小杉流団No.16遺跡出土遺物

1号窯

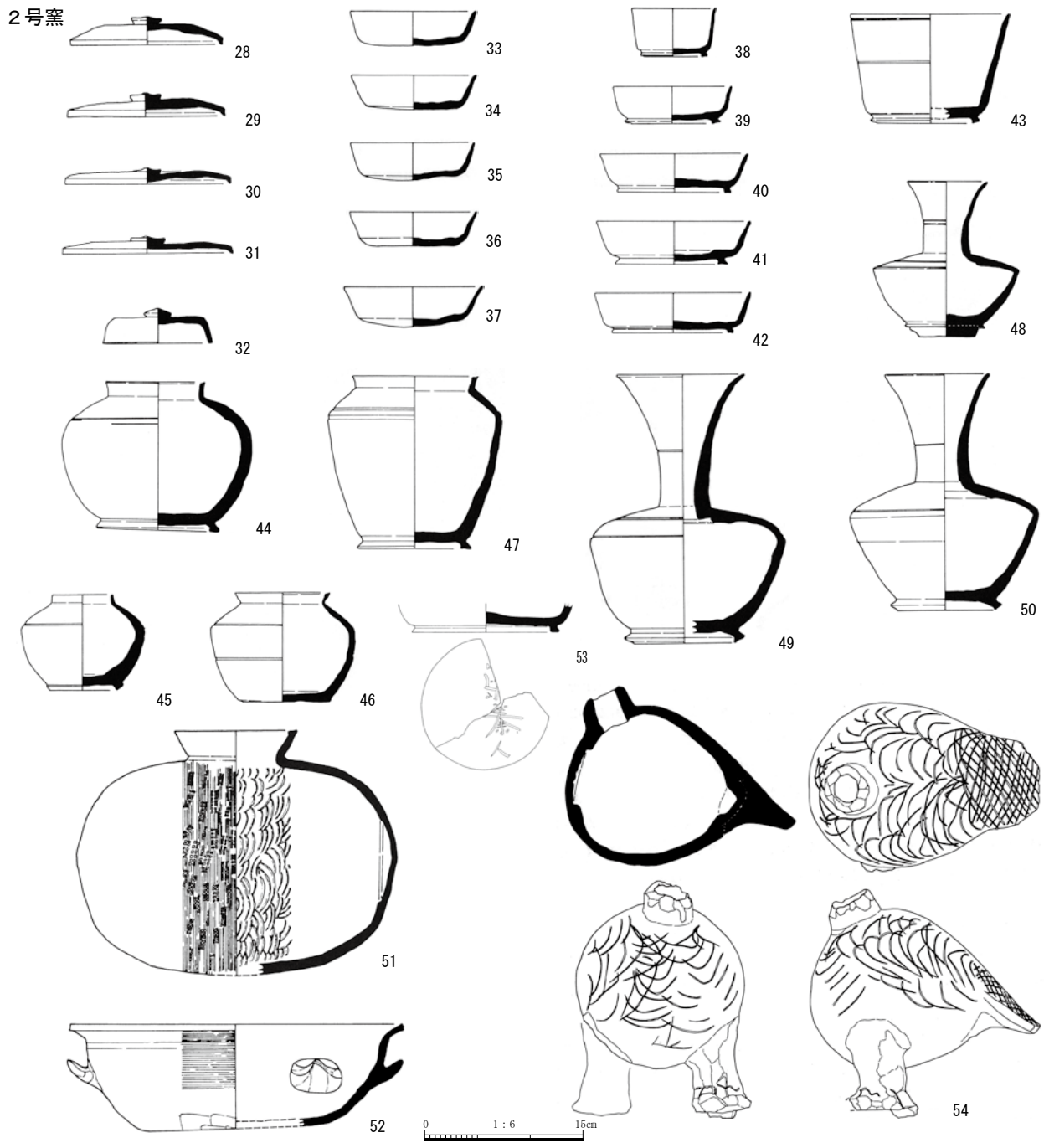


第 16 图 小杉流団No.16 遺跡出土遺物 1 (1~21 1/6、22~27 1/4)

横瓶。体部長がやや大きめのタイプ。15は盤。体部には把手がつく。16は窯道具。底部から体部にかけて凹凸が激しい。17は土師器の壺。外面全体と口縁内面に赤彩が施され、8のように肩部が張り出すタイプ。18は刻書土器。横瓶の体部に「大夫／者以司□」とヘラ書きされている。19～21は硯。19は台部に透かしがある。20・21は杯を伏せたような形で、21の台部には六単位の細線刻文様が描かれる。22・23は土馬。生焼けの須恵質。24・25は鳥形土器の脚部。太く、しっかりした作り。26・27は錘。26は灰白色で生焼け品である。上下に孔が貫通し上部は七角形に整形され、印刻により装飾が施される。27は四角柱で、上部に向かってやや細くなる。底部には四角と十字が組み合わされた印刻が施される。

② 2号窯 (28～54) 28～32は蓋。28～31は杯蓋。灰色ないし暗灰色で、扁平な宝珠形のつまみをもつ。頂部はヘラケズリ・ヨコナデを施し、内面中央部に仕上げナデを行う。32は壺蓋。天井部には淡緑色の自然釉が付着する。33～43は杯。33～37は底部の切り離しがいずれもヘラキリ、

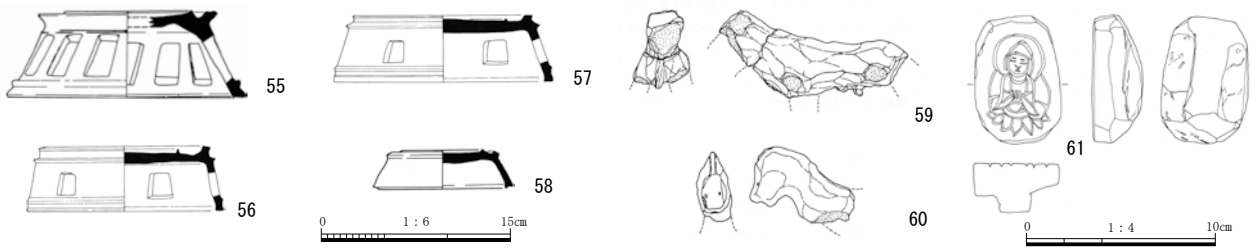
2号窯



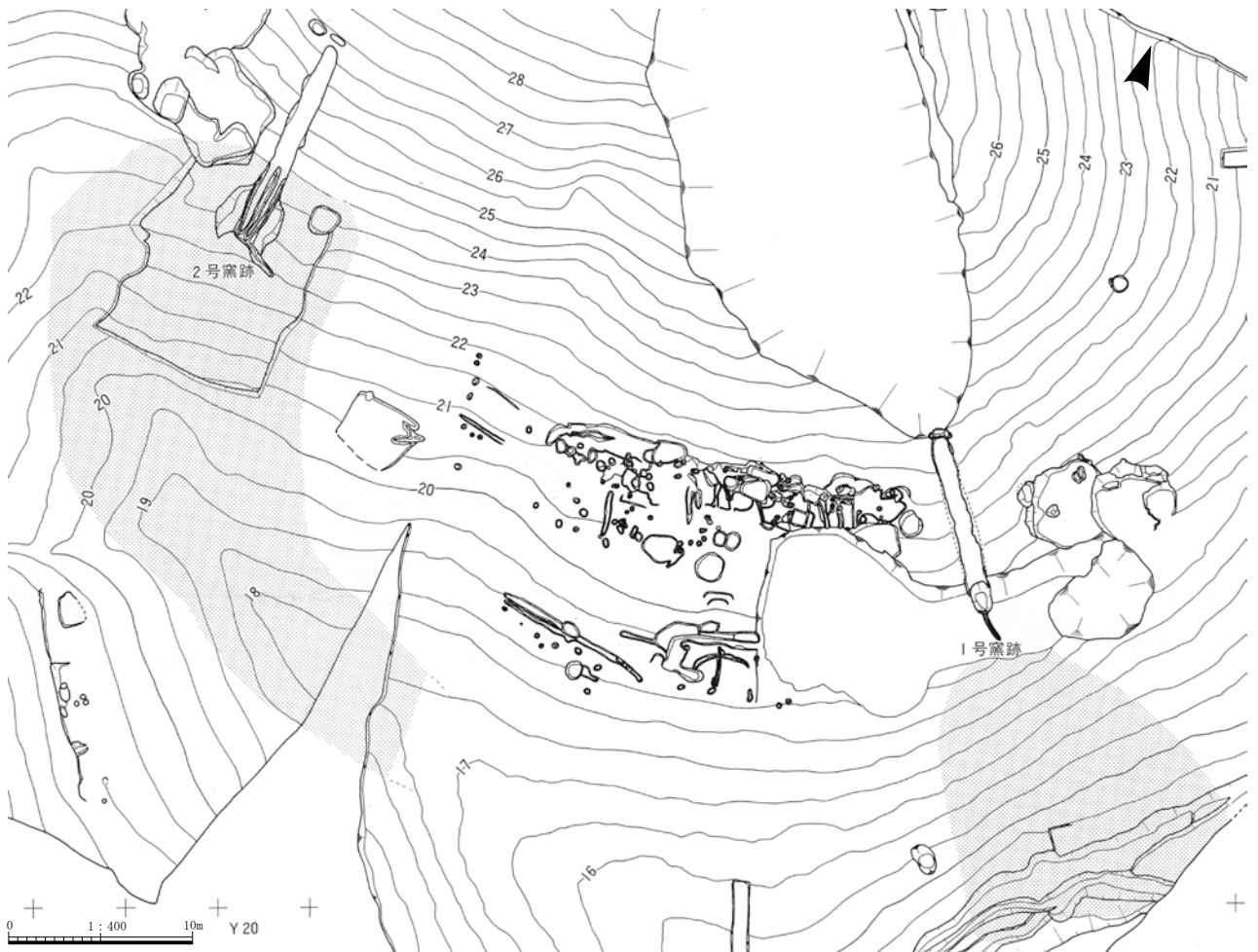
第 17 図 小杉流団No.16 遺跡出土遺物 2 (1/6)

体部内外面にヨコナデを行う。38～43は高台のつく杯で、体部に深さのある38・43と、浅い39～42の二種類がある。44～50は壺。44～47は短頸壺で肩部あるいは、肩部と胴部に沈線が施される。48～50は長頸壺。いずれも肩部が張り、頸部と肩部に沈線が施される。48の底部は焼き台と溶着している。51は横瓶。体部外面は格子状タタキの後、カキメを施す。52は盤。体部上半はカキメを施し下部はヘラケズリ、体部には対面に把手がつく。53は刻書土器。杯の底部に「□□秦人」とヘラ書きされている。54は鳥形土器。1号窯出土のものと接合する。体部正面や側面には細線刻で羽毛を表現し、尾部は格子状に斜めに描き簡略化する。体部に細かい亀裂が入り尾部が剥離することから焼き損じ品とみられ、頸部を打ち欠いたうえで廃棄したものと思われる。

③窯以外 (55～61) 55～58は硯。55～57は台脚に透かし穴がある。56は陸が磨滅し、使用されていることがわかる。59・60は土馬。灰白色の生焼けで、59は首から胴部にかけてであるが鞍などの装飾はみられない。60は頭部。目や鼻の表現は刺突で拙い。61は印仏。粘土板に座仏の姿が刻まれた素焼きで、裏側には短いつまみ状の突起がつけられる。両手先を腹前で衣に包み二重円光、蓮華座付。



第18図 小杉流団No.16 遺跡出土遺物3 (55～58 1/6、59～61 1/4)



第19図 小杉流団No.16 遺跡遺構平面図 (1/400)

6 小杉流団No.18 遺跡 B 地区出土品 (富山県射水市青井谷)

－ 8 世紀中頃：土師器 3 点 (甕 3 点) －

(1) 遺跡と出土品の概要

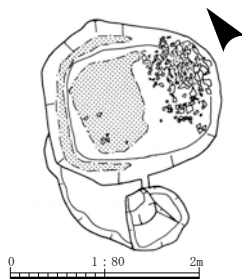
遺跡は射水郡東側に位置する。下条川左岸、射水丘陵の縁辺部にあたり、北側に射水平野が広がる。標高は 18～35 m、北側の平野部とは 10～25 m の比高差がある。小杉流団No.16 遺跡の小さな谷一つ隔てた南側に立地する。丘陵北側では良質の粘土が採取されるほか、近辺には山林があり燃料の供給にも適している。

小杉流通業務団地内遺跡群の発掘調査は、昭和 52 (1977) 年から団地造成に伴い開始、No.18 遺跡 B 地区は第 8 次である昭和 60 (1985) 年に行われ、古墳時代の竪穴住居のほか、古代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑等が検出されている。また、土坑 21 基のうち 5 基は床面などに焼けた跡がみられる土師器焼成遺構である。

出土品は、床面と壁面が焼けており土師器焼成をおこなっていた穴 19 からで、すべて煮炊具であり、須恵器窯群中にある 8 世紀中頃の土師器生産体制を示す資料として重要である。

(2) 出土品各説

穴 19 (1～3) 1～3 は土師器の甕である。1・2 の小型のものは、共通の調整がされる。口縁部はゆるく外反し、胴部外面は縦方向のハケメ、胴部下部はケズリが施される。また、口縁部内外面ともにロクロナデされる。3 は長胴甕で、口縁部がくの字に外反し、端部の断面が三角形となる。胴部外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメが施される。



第 21 図 小杉流団No.18 遺跡 穴 19 遺構平面図(1/80)



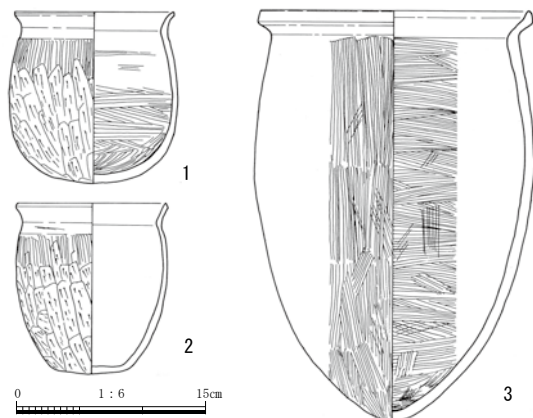
第 20 図 小杉流団No.18 遺跡位置図



写真 12 小杉流団No.18 遺跡全景 (南から)



写真 13 小杉流団No.18 遺跡 穴 19 (北東から)



第 22 図 小杉流団No.18 遺跡出土遺物 (1/6)



写真 14 小杉流団No.18 遺跡出土遺物

いしたるう
7 石太郎 I 遺跡出土品 (富山県射水市黒河)

— 8世紀後半：須恵器 20点 (蓋 6点、杯 6点、壺 6点、横瓶 1点、鍋 1点) —

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水郡東側に位置する。射水丘陵上のほぼ中央部に立地し、北側には射水平野が広がる。西側には谷を一つ挟んで、小杉流通業務団地内遺跡群が分布している。発掘調査は「第1回ジャパンエキスポ富山'92」の会場整備に伴い、平成2(1990)年におこなった。調査の結果、須恵器窯1基、炭窯3基、製鉄炉3基等を検出した。出土品は1号窯からで、亀裂変形したものが目立つが残りはよく、射水郡における8世紀後半の基準資料として重要である。



第23図 石太郎 I 遺跡位置図

(2) 出土品各説

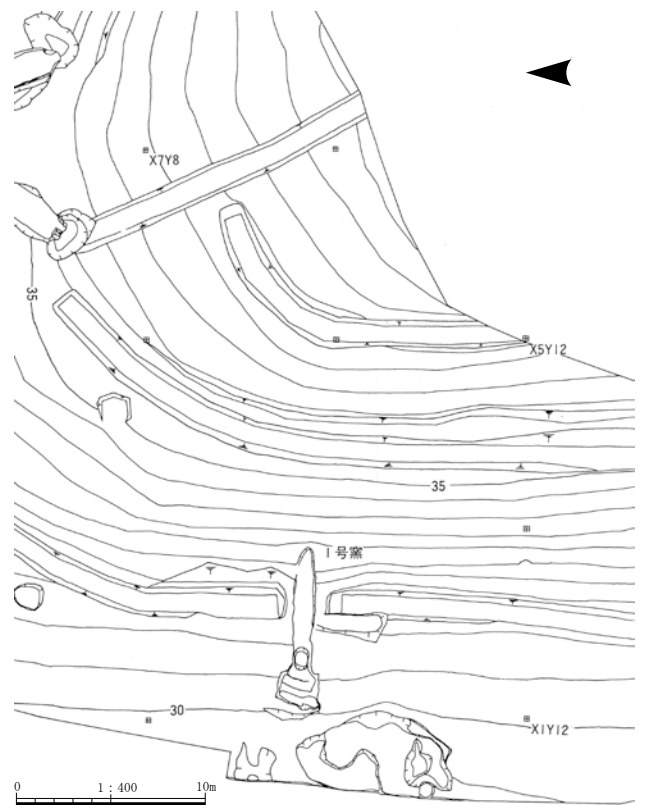
1号窯(1~20) 1~20は須恵器である。1~4は杯蓋。小型の1~3と大型の4がある。つまみは低く、宝珠状1・3・4とボタン型の2があり、口縁端部の形態は様々である。5・6は壺蓋。5は口縁端部が断面三角形、6は平縁である。7~9は高台のつく杯。体部は直線的に伸び、口縁部はやや外反する。高台は体部と底部の境付近につく。10~12は高台の付かない杯。口径はほぼ同じである。13・14は短頸壺。薬壺形で蓋がつく。体部肩が張



写真15 石太郎 I 遺跡窯 (西から)

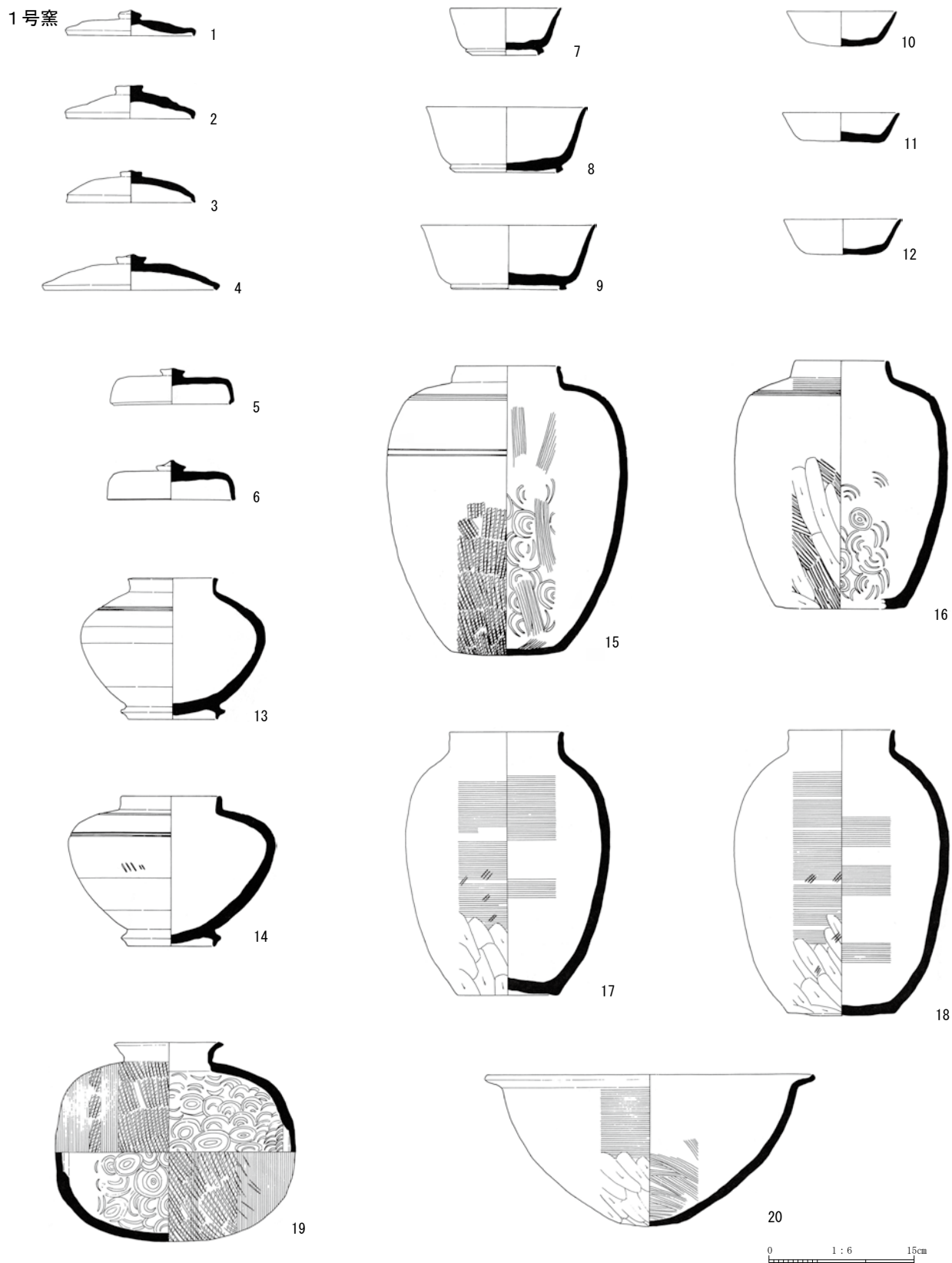


写真16 石太郎 I 遺跡出土遺物



第24図 石太郎 I 遺跡遺構平面図 (1/400)

り、高台がつく。体部上半には二条一対の沈線が13では一段、14では二段めぐる。15～18は直口壺。15・16は肩の張りが強い。17・18は肩の張りが弱くなで肩を呈す。底部は平底に近い。体部上半内外面はカキメ、底部に近い体部下半はヘラケズリを施す。19は横瓶。両側面に閉塞板があり、カキメ調整する。20は鍋。体部外面上半はカキメ、下半は斜め方向のケズリを施し、内面はハケメ調整する。



第 25 図 石太郎 I 遺跡出土遺物 (1/6)

くるかわなかおいだ
8 黒河中老田遺跡出土品（富山県射水市黒河）

－ 8 世紀後半～ 9 世紀前半：木製品 2 点（タタキ板 1 点、掘り棒 1 点）－

(1) 遺跡と出土品の概要

遺跡は射水郡東側に位置する。射水丘陵北端、神通川の旧扇状地面に点在する微高地から北側の低地部に立地する。平成 13（2001）年の主要地方道小杉婦中線臨時道路交付金事業に伴う発掘調査において、古墳時代の粘土採掘坑の他、古代では集落と、古墳時代のような集中的なものではないものの粘土採掘坑を検出した。

出土品は、粘土採掘坑である S K 180 からで、採掘に伴う掘り棒の存在もさることながら、須恵器の整形に必要なタタキ板の出土は稀であるだけでなく、刻線が残るなど保存状態も非常によいことから、県内のみならず全国的にも重要な木製品遺物である。

(2) 出土品各説

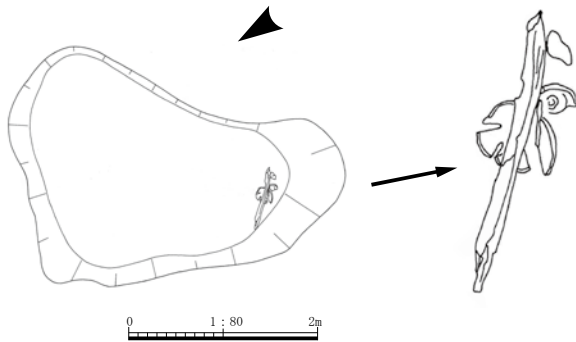
S K 180（1・2） 1・2 は木製品。1 はタタキ板。扁平な匙形で、身部分の両面に木目と直交する 0.4～0.6 mm 幅の平行線を刻む。樹種はクリ。2 は粘土採掘に使用したと想定される掘り棒で、一方の先端を尖らせている。



第 26 図 黒河中老田遺跡位置図



写真 17 黒河中老田遺跡全景（南から）



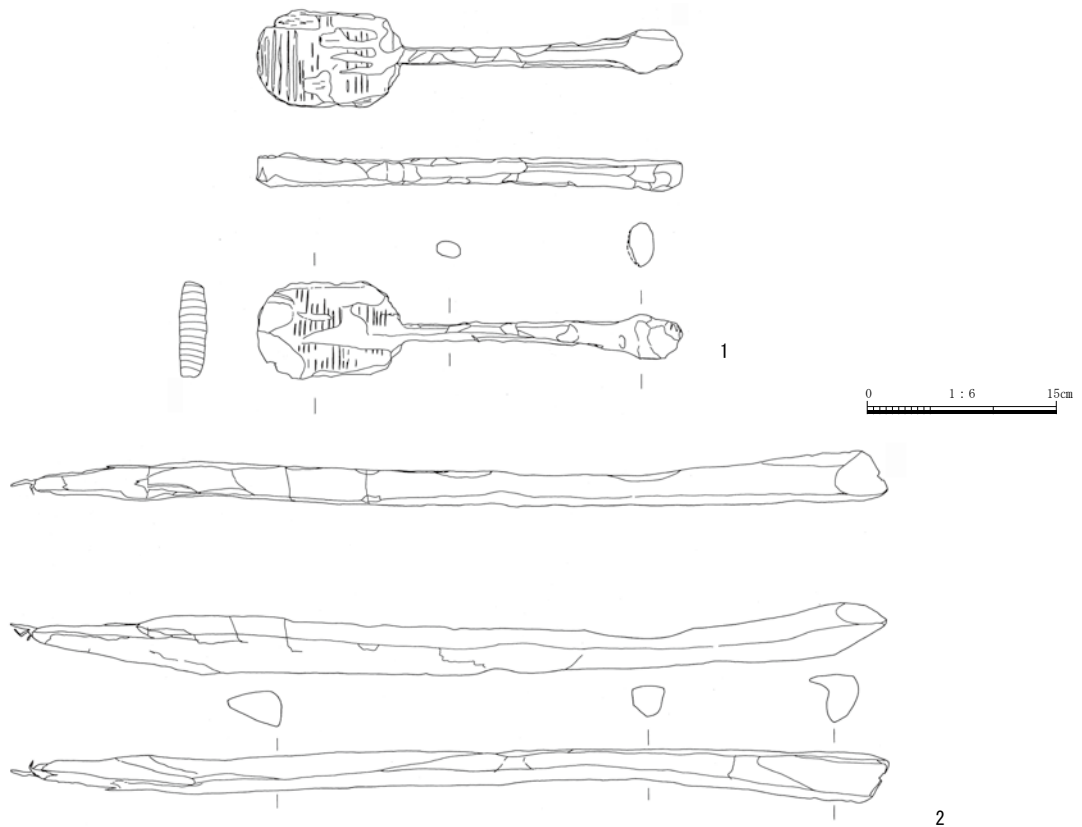
第 27 図 黒河中老田遺跡遺構平面図（1/80）



写真 18 黒河中老田遺跡遺物出土状況（南から）



写真 19 黒河中老田遺跡出土遺物



第 28 図 黒河中老田遺跡出土遺物 (1/6)

とうみみやた
9 任海宮田遺跡出土品 (富山県富山市任海)

— 9 世紀後半～10 世紀初頭：土師器 5 点 (椀 3 点、鉢 2 点) —

(1) 遺跡の概要

遺跡は新川郡西側に位置する。神通川右岸の扇状地に立地する大規模集落遺跡で、平成 13 (2001) 年の公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査では、竪穴住居や掘立柱建物、土師器焼成遺構が検出され、墨書土器や硯、鳥形土製品など特徴的な遺物も出土している。土師器焼成遺構は、先述の小杉流団No. 18 遺跡のように須恵器の窯や須恵器工人集落の一角などで確認されることが多いが、当遺跡は須恵器生産地から離れた平野



第 29 図 任海宮田遺跡位置図



第 30 図 任海宮田遺跡遺構平面図 (1/80)



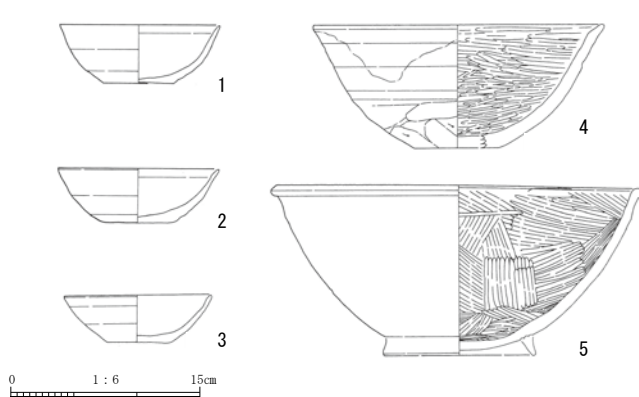
写真 20 任海宮田遺跡 B6 地区全景 (北から)

部に位置している。

出土品は土師器焼成遺構からで、食器類が中心となっており、9世紀後半～10世紀初頭における食膳具生産の代表的な資料である。

(2) 出土品各説

土師器焼成遺構(1～5) 1～5は土師器。1～3は椀。平坦な底部からやや内湾ぎみに開く体部である。4・5は鉢。両者とも黒色土器で口縁端部は4がやや外反し、5は外下方へ屈曲する。



第31図 任海宮田遺跡出土遺物(1/6)



写真21 任海宮田遺跡出土遺物

参考文献

- 池野正男 1994「射水丘陵における8世紀中頃の画期」『北陸古代土器研究』第4号 北陸古代土器研究会
 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988『シンポジウム北陸の古代土器研究の現状と課題』
 上野 章 1993「富山県における生産開始期の須恵器窯跡について」『北陸古代土器研究』第3号 北陸古代土器研究会
 宇野隆夫 1991『律令社会の考古学的研究 北陸を舞台として』桂書房
 北陸古瓦研究会編 1987『北陸の古代寺院－その源流と古瓦』桂書房
 北陸古代手工業生産史研究会 1989『北陸の古代手工業生産』
 望月精司 1996「北陸における古代土器生産体制の変質と展開」『北陸古代土器研究』第6号 北陸土器研究会

第2表 小杉流団No.7遺跡出土品一覧

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	1号窯		須恵器	蓋	12.5	4.0		7世紀前半		3・4次 第15図4 図版9-1
2	1号窯		須恵器	蓋	12.8	4.0		7世紀前半		3・4次 第15図7 図版9-2
3	1号窯		須恵器	杯	11.8	3.4		7世紀前半		3・4次 第15図24 図版9-4
4	1号窯		須恵器	杯	12.0	3.4		7世紀前半		3・4次 第15図25 図版9-3
5	1号窯		須恵器	甕	13.0	29.3		7世紀前半		3・4次 第17図2 図版9-9
6	2号窯		須恵器	杯	12.4	4.1		7世紀前半		3・4次 第19図7 図版9-14
7	3号窯		須恵器	蓋	12.8	4.2		7世紀前半		3・4次 第21図1 図版9-17
8	3号窯		須恵器	蓋	12.7	4.4		7世紀前半		3・4次 第21図3 図版9-15
9	3号窯		須恵器	蓋	12.8	4.6		7世紀前半		3・4次 第21図5 図版9-16
10	3号窯		須恵器	蓋	13.0	4.4		7世紀前半		3・4次 第21図6 図版9-12
11	3号窯		須恵器	杯	11.9	4.1		7世紀前半		3・4次 第21図19 図版10-3
12	3号窯		須恵器	杯	12.0	4.2		7世紀前半		3・4次 第21図20 図版9-19
13	3号窯		須恵器	杯	11.9	3.9		7世紀前半		3・4次 第21図22 図版10-1
14	3号窯		須恵器	杯	13.6	4.3		7世紀前半		3・4次 第21図28 図版9-20
15	3号窯		須恵器	杯	12.0	3.6		7世紀前半		3・4次 第21図30 図版10-2
16	4号窯		須恵器	蓋	12.0	3.7		7世紀前半		3・4次 第23図3 図版10-6
17	4号窯		須恵器	蓋	12.8	3.8		7世紀前半		3・4次 第23図7 図版10-9
18	4号窯		須恵器	杯	12.0	4.4		7世紀前半		3・4次 第23図30 図版10-11
19	4号窯		須恵器	杯	12.1	3.7		7世紀前半		3・4次 第23図35 図版10-10
20	5号窯		須恵器	蓋	13.5	4.4		7世紀前半		3・4次 第26図1 図版10-14
21	5号窯		須恵器	蓋	13.2	4.7		7世紀前半		3・4次 第26図5 図版10-13
22	5号窯		須恵器	蓋	13.3	4.6		7世紀前半		3・4次 第26図6 図版10-17
23	5号窯		須恵器	蓋	13.2	4.4		7世紀前半		3・4次 第26図7 図版10-16
24	5号窯		須恵器	杯	11.0	3.8		7世紀前半		3・4次 第26図9 図版10-20
25	5号窯		須恵器	甕	42.8	97.6		7世紀前半		3・4次 第27図

第3表 安居窯跡群出土品一覽

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	1号窯		須恵器	蓋	13.5	5.9		7世紀前半		4
2	1号窯		須恵器	蓋	13.0	5.6		7世紀前半		6
3	1号窯		須恵器	蓋	11.4	3.5		7世紀前半		11
4	1号窯		須恵器	蓋	11.4	4.1		7世紀前半		12
5	1号窯		須恵器	杯	9.4	3.6		7世紀前半		14
6	1号窯		須恵器	広口壺	16.0	9.3		7世紀前半		27
7	1号窯		須恵器	鉢	9.3	8.6		7世紀前半		193
8	1号窯		須恵器	高杯	14.0			7世紀前半		195
9	2号窯		須恵器	蓋	9.5	3.2		7世紀半ば～第3四半期		45
10	2号窯		須恵器	杯	8.5	2.2		7世紀半ば～第3四半期		51
11	2号窯		須恵器	杯	8.5	2.0		7世紀半ば～第3四半期		53
12	2号窯		須恵器	蓋	8.8	2.8		7世紀半ば～第3四半期		95
13	2号窯		須恵器	蓋	8.1	2.5		7世紀半ば～第3四半期		98
14	2号窯		須恵器	蓋	6.8	2.1		7世紀半ば～第3四半期		115
15	2号窯		須恵器	蓋	6.7	2.7		7世紀半ば～第3四半期		118
16	2号窯		須恵器	蓋	21.0			7世紀半ば～第3四半期		125
17	2号窯		須恵器	杯	11.2	2.9		7世紀半ば～第3四半期		128
18	2号窯		須恵器	杯	11.1	2.0		7世紀半ば～第3四半期		130
19	2号窯		須恵器	杯	10.3	3.6		7世紀半ば～第3四半期		141
20	2号窯		須恵器	杯	12.1	2.2		7世紀半ば～第3四半期		144
21	2号窯		須恵器	杯	11.0	2.2		7世紀半ば～第3四半期		147
22	2号窯		須恵器	杯	11.6	2.6		7世紀半ば～第3四半期		148
23	2号窯		須恵器	杯	8.9	4.3		7世紀半ば～第3四半期		151
24	2号窯		須恵器	杯	9.3	3.6		7世紀半ば～第3四半期		152
25	2号窯		須恵器	杯	8.1	3.6		7世紀半ば～第3四半期		153
26	2号窯		須恵器	杯	9.2	2.6		7世紀半ば～第3四半期		156
27	2号窯		須恵器	杯	9.2	3.3	6.2	7世紀半ば～第3四半期		173
28	2号窯		須恵器	杯	13.2	4.9		7世紀半ば～第3四半期		185
29	2号窯		須恵器	鉢	12.8	9.8		7世紀半ば～第3四半期		194
30	2号窯		須恵器	高杯	28.0	15.4		7世紀半ば～第3四半期		201
31	2号窯		須恵器	高杯	12.7	8.7		7世紀半ば～第3四半期		206
32	2号窯		須恵器	高杯	11.3	10.2		7世紀半ば～第3四半期		209
33	2号窯		須恵器	高杯	10.9	6.8		7世紀半ば～第3四半期		266
34	2号窯		須恵器	高杯	9.4	6.6		7世紀半ば～第3四半期		271
35	2号窯		須恵器	壺	5.5	7.7		7世紀半ば～第3四半期		298
36	2号窯		須恵器	壺	10.8			7世紀半ば～第3四半期		283
37	2号窯		須恵器	壺				7世紀半ば～第3四半期		280
38	2号窯		須恵器	壺				7世紀半ば～第3四半期		281
39	2号窯		須恵器	横瓶	9.4	18.6		7世紀半ば～第3四半期		317
40	2号窯		須恵器	硯	9.8			7世紀半ば～第3四半期		415
41	2号窯		土製品	土馬		13.6		7世紀半ば～第3四半期	須恵質	416
42	2号窯		土製品	土馬		2.3		7世紀半ば～第3四半期	須恵質	417
43	2号窯		須恵器	陶棺				7世紀半ば～第3四半期		419
44	2号窯		須恵器	陶棺				7世紀半ば～第3四半期		420
45	2号窯		土製品	土鍾	8.4	3.3		7世紀半ば～第3四半期	須恵質75.4g	418

第4表 小杉丸山遺跡出土品一覽1

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径 (長さ)	器高 (幅)	底径			
1	1号窯		須恵器	蓋	9.3	3.4		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図3
2	1号窯		須恵器	蓋	9.5	4.0		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図6
3	1号窯		須恵器	蓋	10.5	3.2		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図9
4	1号窯		須恵器	蓋	10.8	3.2		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図14
5	1号窯		須恵器	蓋	11.5	3.1		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図18
6	1号窯		須恵器	蓋	11.9	3.4		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図24
7	1号窯		須恵器	杯	9.4	4.5	3.6	7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図33
8	1号窯		須恵器	杯	8.9	3.4	4.2	7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図35
9	1号窯		須恵器	杯	11.0	4.5		7世紀中葉～第3四半期		6次 第25図44
10			瓦	軒丸	20.2	19.3		7世紀中頃		6次 第28図201
11		X31Y17表土	瓦	軒丸				7世紀中頃		6次 第28図202
12		X46Y16 1層	瓦	軒丸				7世紀中頃		6次 第28図203
13	12号住		瓦	丸	18.5	47.8		7世紀中頃		6次 第29図208
14		X34Y5	瓦	丸	20.8	60.0		7世紀中頃		6次 第29図209
15		X33Y21	瓦	平	31.5	45.2		7世紀中頃		6次 第32図224
16		X36Y15 灰層	瓦	平	30.6			7世紀中頃		6次 第32図225
17		X33Y40 地山直上	瓦	平		44.8		7世紀中頃		6次 第31図221
18		包含層	須恵器	高杯	14.0	8.5		7世紀中頃		5次 第23図56
19		包含層	須恵器	高杯	14.3	9.5		7世紀中頃		5次 第23図57
20		谷	須恵器	高盤				7世紀中頃		5次 第24図3
21		X46Y13	須恵器	蓋	12.2	7.4		7世紀中頃		6次 第26図73
22			須恵器	壺			9.8	7世紀中頃		6次 第26図74

第4表 小杉丸山遺跡出土品一覽2

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径 (長さ)	器高 (幅)	底径			
23		谷	須恵器	壺	12.0	20.6	6.0	7世紀中頃		5次 第24図6
24		X34Y23 1~2層	須恵器	壺	4.4	5.6		7世紀中頃		6次 第26図78
25		丘陵部	須恵器	椀	10.2	5.7		7世紀中頃		6次 第25図55
26		X27Y8 1~2層	須恵器	甕	10.5	8.2	4.4	7世紀中頃		6次 第26図72
27		穴群	須恵器	甕	18.4	24.8		7世紀中頃		6次 第26図82
28		X36Y11	須恵器	横瓶	10.3	21.3		7世紀中頃		5次 第25図7
29		谷	須恵器	平瓶	8.5	17.5		7世紀中頃		5次 第25図2
30		包含層	須恵器	硯	11.2			7世紀中頃		6次 第27図100
31		包含層	土製品	当て具	9.2			7世紀中頃	須恵質	6次 第27図102
32	穴106		土製品	土馬	17.3			7世紀中頃	須恵質	6次 第27図101
33		X39Y13 1~2層	土製品	錘	3.8	4.6		7世紀中頃	須恵質46.8g	6次 第27図105
34		X38Y10	土製品	錘	3.5	4.2		7世紀中頃	須恵質46.4g	5次 第26図20
35		包含層	土製品	錘	3.3	4.5		7世紀中頃	須恵質33.4g	5次 第26図21
36		包含層	土製品	土錘	8.0	5.1		7世紀中頃	須恵質生焼け 234.5g	6次 第27図109
37		包含層	土製品	土錘	7.6	4.5		7世紀中頃	須恵質生焼け 186.4g	6次 第27図108
38		包含層	土製品	土錘	13.8	3.2		7世紀中頃	土師質240.3g	6次 第27図110
39		灰原上層	須恵器	舟形		1.2		7世紀中頃		6次 第27図103
40		包含層	石製品	紡錘車	3.3	1.7		7世紀中頃	滑石	6次 第27図116
41		X34Y15	須恵器	紡錘車	9.0	2.7		7世紀中頃	須恵質生焼け 186.0g	6次 第27図119

第5表 小杉流団No.16 遺跡出土品一覽1

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	1号窯	灰原	須恵器	蓋	19.3	5.3		8世紀前半~中頃		6次 第7図45 図版6-14
2	1号窯	灰原	須恵器	蓋	5.0	2.6		8世紀前半~中頃		6次 第7図77 図版8-7
3	1号窯	焼き台	須恵器	蓋	14.2	4.4		8世紀前半~中頃		6次 第6図20 図版8-2
4	1号窯	灰原	須恵器	杯	11.4	7.3	9.5	8世紀前半~中頃		6次 第7図54 図版6-24
5	1号窯	灰原	須恵器	杯	9.9	6.1		8世紀前半~中頃		6次 第7図52 図版6-22
6	1号窯	灰原	須恵器	皿	19.4	3.3	9.6	8世紀前半~中頃		6次 第7図74 図版7-16
7	1号窯	灰原	須恵器	壺	9.4	17.7	11.6	8世紀前半~中頃		6次 第8図95 図版8-20
8	1号窯	灰原	須恵器	壺	11.2			8世紀前半~中頃		6次 第8図97 図版9-1
9	1号窯	灰原	須恵器	壺	16.2	31.8	15.6	8世紀前半~中頃		6次 第9図107 図版10-3
10	1号窯	灰原	須恵器	壺	10.2	21.1	7.3	8世紀前半~中頃		6次 第8図93 図版9-6
11	1号窯	灰原	須恵器	壺	16.8	22.1	13.0	8世紀前半~中頃		6次 第8図99 図版10-1
12	1号窯	灰原	須恵器	壺	4.8	7.1	7.2	8世紀前半~中頃		6次 第7図83 図版8-9
13	1号窯	灰原	須恵器	壺	8.0	7.6	5.5	8世紀前半~中頃		6次 第7図85 図版8-13
14	1号窯	灰原	須恵器	横瓶	12.2	25.5		8世紀前半~中頃		6次 第8図100
15	1号窯	灰原	須恵器	盤	33.9	13.0	25.6	8世紀前半~中頃		6次 第9図109 図版11-3
16	1号窯	覆土	須恵器	窯道具	8.4	4.8		8世紀前半~中頃		6次 第6図33 図版7-23
17	1号窯	覆土	土師器	壺	10.0	18.6	11.6	8世紀前半~中頃	外面全体と口縁 内面に赤彩	6次 第6図37 図版12-1
18	1号窯	灰原	須恵器	横瓶(刻書)				8世紀前半~中頃		6次 第17図5 図版15-5
19	1号窯、谷		須恵器	硯	17.0	6.4	20.2	8世紀前半~中頃		6次 第18図5
20	1号窯		須恵器	硯	9.4	4.6	13.8	8世紀前半~中頃		6次 第18図6 図版14-3
21	1号窯	灰原	須恵器	硯	10.2	3.6	13.6	8世紀前半~中頃		6次 第18図7 図版14-4
22	1号窯	4区覆土	土製品	土馬	(7.0)	(4.0)		8世紀前半~中頃		6次 第16図1
23	1号窯		土製品	土馬	(3.6)	(1.2)		8世紀前半~中頃		6次 第16図7
24	1号窯	灰原	須恵器	鳥形			6.0	8世紀前半~中頃	脚部	6次 第16図24 図版14-15
25	1号窯	灰原	須恵器	鳥形			5.5	8世紀前半~中頃	脚部	6次 第16図25 図版14-16
26	1号窯		土製品	錘	5.2	3.8		8世紀前半~中頃	生焼け	6次 第17図2 図版15-2
27	1号窯	灰原	土製品	錘	7.0	4.3		8世紀前半~中頃		6次 第17図3 図版15-4
28	2号窯	灰原	須恵器	蓋	14.0	2.6		8世紀前半~中頃		2次 第19図2 図版4-7
29	2号窯	灰原	須恵器	蓋	14.9	2.2		8世紀前半~中頃	生焼け	2次 第19図6 図版4-6
30	2号窯	灰原	須恵器	蓋	15.5	1.6		8世紀前半~中頃		2次 第19図11 図版4-9
31	2号窯	灰原	須恵器	蓋	16.0	1.7		8世紀前半~中頃		2次 第19図17 図版4-5
32	2号窯	灰原	須恵器	蓋	10.3	3.3		8世紀前半~中頃		2次 第21図4 図版5-1
33	2号窯	灰原	須恵器	杯	11.5	3.3		8世紀前半~中頃		2次 第20図1
34	2号窯	灰原	須恵器	杯	11.7	3.2		8世紀前半~中頃		2次 第20図2
35	2号窯	灰原	須恵器	杯	11.5	3.6		8世紀前半~中頃		2次 第20図3 図版4-12
36	2号窯	灰原	須恵器	杯	11.7	3.1		8世紀前半~中頃		2次 第20図4 図版4-13
37	2号窯	灰原	須恵器	杯	12.9	3.8		8世紀前半~中頃		2次 第20図5 図版4-14
38	2号窯	灰原	須恵器	杯	7.6	4.4	6.0	8世紀前半~中頃	内面に自然釉	2次 第20図10 図版4-17
39	2号窯	灰原	須恵器	杯	11.0	3.5	7.6	8世紀前半~中頃	内面に自然釉	2次 第20図24 図版4-20
40	2号窯	灰原	須恵器	杯	13.6	3.6	10.2	8世紀前半~中頃		2次 第20図32 図版4-23
41	2号窯	灰原	須恵器	杯	14.2	4.0	10.4	8世紀前半~中頃		2次 第20図34
42	2号窯	灰原	須恵器	杯	14.6	3.6	11.0	8世紀前半~中頃		2次 第20図35 図版4-22

第5表 小杉流団No.16 遺跡出土品一覧2

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
43	2号窯	灰原	須恵器	杯	14.6	10.2	9.0	8世紀前半～中頃		2次 第20図39 図版4-26
44	2号窯	灰原	須恵器	壺	9.2	13.9	11.4	8世紀前半～中頃	肩部重ね焼き痕	2次 第21図30 図版5-8
45	2号窯	灰原	須恵器	壺	13.0	4.4	11.0	8世紀前半～中頃		2次 第21図28 図版5-6
46	2号窯	灰原	須恵器	壺	13.5	4.3	9.2	8世紀前半～中頃		2次 第21図29 図版5-7
47	2号窯	灰原	須恵器	壺	11.8	16.2	11.0	8世紀前半～中頃		2次 第23図7 図版5-9
48	2号窯	灰原	須恵器	壺	7.5	14.6	7.6	8世紀前半～中頃		2次 第22図5 図版5-10
49	2号窯	灰原	須恵器	壺	11.8	25.3	9.4	8世紀前半～中頃		2次 第22図6
50	2号窯	灰原	須恵器	壺	9.6	22.4	9.2	8世紀前半～中頃		2次 第22図11
51	2号窯	灰原	須恵器	横瓶	11.5	22.6		8世紀前半～中頃		2次 第24図1 図版6-2
52	2号窯	灰原	須恵器	盤	31.0			8世紀前半～中頃		2次 第24図7 図版6-4
53	2号窯	灰原	須恵器	杯(刻書)			13.8	8世紀前半～中頃		2次 第19図3 図版6-7
54	1号窯、2号窯	灰原	須恵器	鳥形	21.6	16.0		8世紀前半～中頃		6次 第16図20 図版4-12
55		X41Y22	須恵器	硯	14.0	6.8	19.2	8世紀前半～中頃		6次 第18図2 図版14-1
56	穴7		須恵器	硯	18.2	6.8	20.5	8世紀前半～中頃	台座にほぼ正方形の透かし穴5個	2次 第18図 1
57	2号窯	灰原	須恵器	硯	19.0	6.9	22.0	8世紀前半～中頃	台座にほぼ正方形の透かし穴5個	2次 第18図 2
58	穴32		須恵器	硯	8.0	3.1	9.8	8世紀前半～中頃		6次 第18図8 図版14-5
59	谷部		土製品	土馬	(9.6)	(3.8)		8世紀前半～中頃	生焼け	6次 第16図2
60		X2Y24	土製品	土馬	(6.0)	(2.8)		8世紀前半～中頃	生焼け	6次 第16図5
61			土製	印仏	6.7	4.4		8世紀前半～中頃		6次 第17図1

第6表 小杉流団No.18 遺跡B地区出土品一覧

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	穴19		土師器	甕	12.5	13.5		8世紀中頃		7
2	穴19		土師器	甕	12.7	13.4		8世紀中頃		13
3	穴19		土師器	甕	21.4	325		8世紀中頃		21

第7表 石太郎I遺跡出土品一覧

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	1号窯	灰原	須恵器	蓋	12.8	2.7		8世紀後半		41
2	1号窯	灰原	須恵器	蓋	12.9	3.4		8世紀後半		44
3	1号窯	灰原	須恵器	蓋	13.2	3.2		8世紀後半		51
4	1号窯	窯体内	須恵器	蓋	12.5	3.5		8世紀後半		7
5	1号窯	灰原	須恵器	蓋	11.8	3.7		8世紀後半		110
6	1号窯	灰原	須恵器	蓋	12.8	3.9		8世紀後半		112
7	1号窯	最終操業	須恵器	杯	11.3	4.8	6.6	8世紀後半		15
8	1号窯	灰原	須恵器	杯	16.4	6.8	10.4	8世紀後半		92
9	1号窯	灰原	須恵器	杯	12.9	6.5	11.2	8世紀後半		94
10	1号窯	灰原	須恵器	杯	11.0	3.6		8世紀後半		95
11	1号窯	灰原	須恵器	杯	11.8	2.8		8世紀後半		101
12	1号窯	灰原	須恵器	杯	12.0	3.6		8世紀後半		102
13	1号窯	灰原	須恵器	短頸壺	8.5	14.3	9.1	8世紀後半		114
14	1号窯	灰原	須恵器	短頸壺	9.9	15.3	8.9	8世紀後半		116
15	1号窯	灰原	須恵器	直口壺	10.5	29.6	11.5	8世紀後半		131
16	1号窯	灰原	須恵器	直口壺	9.4	25.4	12.4	8世紀後半		135
17	1号窯	灰原	須恵器	直口壺	11.4	27.0	10.3	8世紀後半		142
18	1号窯	灰原	須恵器	直口壺	10.7	29.2	11.2	8世紀後半		143
19	1号窯	灰原	須恵器	横瓶	10.3	20.3		8世紀後半		137
20	1号窯	灰原	須恵器	鍋	33.0	15.6		8世紀後半		140

第8表 黒河中老田遺跡出土品一覧

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	規格 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					長さ	幅	厚さ			
1	SK180		木製品	タタキ板	32.0	7.0	2.0	8世紀後半～9世紀前半	クリ	181
2	SK180		木製品	掘り棒	67.0	5.5	4.5	8世紀後半～9世紀前半	クリ?	182

第9表 任海宮田遺跡出土品一覧

番号	遺構番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			詳細時期	備考	報告番号
					口径	器高	底径			
1	土師器焼成遺構	B6地区	土師器	椀	12.6	4.5	5.5	9世紀後半～10世紀初め		1760
2	土師器焼成遺構	B6地区	土師器	椀	12.5	4.2	6.0	9世紀後半～10世紀初め		1766
3	土師器焼成遺構	B6地区	土師器	椀	11.6	3.5	4.9	9世紀後半～10世紀初め	内外面赤彩	1822
4	土師器焼成遺構	B6地区	黒色土器	鉢	22.4	9.6	6.6	9世紀後半～10世紀初め		1838
5	土師器焼成遺構	B6地区	黒色土器	鉢	28.7	13.3	12.2	9世紀後半～10世紀初め		1839



富山県出土の重要考古資料 13

とやまの古代生産遺跡等出土品

小杉流団No.7 遺跡
安居窯跡群
小杉丸山遺跡
小杉流団No.16遺跡
小杉流団No.18遺跡 B 地区
石太郎 I 遺跡
黒河中老田遺跡
任海宮田遺跡

発行日 令和3年3月31日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115 富山市茶屋町206番3号

印刷 前田印刷株式会社